

# 忍郷友会



## 忍藩から現代へ 人と発展



# 公益財団法人 忍郷友会 とは・・・

## 創 立

明治四年（一八七一年）の廃藩置県で東京を初め、全国に散った旧藩士の人たち八十余名が、明治三十八年（一九〇五年）十月二十二日東京向島百花園に集まり、親睦会として発会式が行われたのが本会の始まりで、同年十二月六日には藩主嗣子松平忠壽少尉の白露戦争凱旋祝賀会が盛大に開催されて本会の基礎が出来、会報第一号が刊行されました。

その後地方在住の士族の他、忍郷にゆかりの一般の人たちも加わり、交流を深め会員相互の親睦、個人の知徳の涵養を目指しながら、ふるさとの為最初は東京に遊学する忍町の学生を援助するなど、後継者の育成と郷土の文化発展にも意を尽くして年月を重ねてきました。

（一般財団法人から公益財団法人へ）

## 財団法人の認可

昭和十年の創立三十周年大会以後は、それまでの幹事制から会長制に替わり、林頼三郎中央大学総長を会長に、松平忠壽貴族院議員を名誉会長に選び、その後昭和十三年に文部省（現文部科学省）より「教育活動を行なう財団法人」として認可され、平成二十六年三月三十一日まで継続してまいりました。

平成二十六年四月一日には、制度改革による法改正に伴い一般財団法人からより社会的信頼・信用が高い公益財団法人への移行を申請、内閣府より厳格な審査の結果公益財団法人として認可されました。

全国的に見ても郷友会はいくつかありますが、法人格を有しているのは本会だけです。現在の会長は、（奥平）松平家十六代の松平忠昌氏です。

## 会 員

本会は明治、大正、昭和の大きな歴史的試練にもめげずに活動は続けられ、会員の延べ数は数千人を超えており、その方々の分野も政界、官界、軍部（戦前）、法曹界、経済界、教育界、学会、美術芸能その他多岐に亘っています。平成二十七年は創立一一〇周年、忍郷人として誇り高く生きてきた郷土を愛する人々の集まりであります。どこにいても、いつも行田のことが忘れられない人々の集まり、それが忍郷友会です。現在の会員数は二百三十余名です。

## 目的と事業

本会の創立者の遺志を継承し、行田地方を中心に東京、神奈川など県内外の会員と関係者の支援を仰ぎながら、会員同士の親睦、知徳の涵養と人格の向上を図りつつ、これからの地域社会や国家の繁栄隆昌に役立つリーダーや後継者の人づくりを目指し、社会教育と学校教育の支援事業を行っていきます。本会の目指す究極の人間像は「確かな知識とともに高い倫理観と品性を備えた人」であります。

（文責 渡邊 栄一）

公益財団法人

忍郷友会広報誌 第七十六号

目

次

令和二年を迎えるに当って……………	松平 忠昌……………	2
事務局長報告……………	矢澤 大和……………	3
平成30年度 事業報告……………	……………	5
収支決算書・貸借対照表……………	……………	8
忍郷友会役員名簿……………	……………	9
令和元年度 会員名簿……………	……………	10
令和元年度 事業行事経過メモ……………	……………	11
第34回 浮き城のまち行田		
「少年の主張大会」……………	瀬山 文孝……………	13
忍郷友会会長賞作品①……………	井上 愛梨……………	14
忍郷友会会長賞作品②……………	川崎 未翔……………	15
忍郷友会会長賞作品③……………	坂木 暖……………	16
第十七回全国藩校サミット萩大会報告	……………	……………
進修塾活動について……………	平井 武夫……………	17
進修塾開校三十周年記念講演会について	……………	……………
読書推進運動について……………	小林 晴夫……………	22
郷土の偉人「大澤龍次郎翁との思い出」を語る	須郷 和美……………	25
藩校サミット萩大会 ドライブ……………	遠藤 初枝……………	26
俳句……………	鈴木 秀憲……………	28
御名刺掲載欄……………	……………	……………
編集後記……………	橋本 恭一……………	38

## 令和二年を迎えるに当たって



公益財団法人 忍郷友会

会長 松平忠昌

明治三十八年十月に創立・発足、平成二十六年四月に公益財団法人として認可されました忍郷友会は、一五年を超える歴史を有する全国でも稀な公益財団であり、当会の歴史と伝統は、云うまでもなく、先輩諸氏を始めとする会員皆様の確固たる郷土愛と献身的な奉仕の精神に基づく活動の賜物です。

公益事業の柱として積極的に推進・活動している「進脩塾事業」は、本年「創設三〇周年」迎え、記念事業も展開しています。

昨年より「忍歴史塾」を開催すると同時に本年も継続して新たな企画を立てながら、「市民公開講座」を軸とした公益活動に注力して参ります。

第三十五回となる「浮城のまち 行田少年の主張大会」も行政への後援を認められてから約二十五年

の取り組みとなっており、青少年の声・発表を直に聞く事が出来る良い機会となっております。会員各位におかれても、当該事業をご理解頂き会場に足を運んで頂くなど積極的なご支援・ご参加を心掛けて頂きたく存じます。

勿論、継続事業であります「読書推進」についても内容を充実する事を念頭に活動して参ります。

ご高承の通り、当会の活動の中心は、国や地域行田の宝である青少年の教育を支援し、人材育成を目指した地道な教育支援活動であり、引続き上述の交易事業活動を継続する事は当然であります。心の柱となる教育に目を向け、心の拠り所となる郷友会とするよう努力して参る所存です。

平成十九年移転後十二年を経ました事務局は、鈴木秀憲副会長と

矢澤事務局長を中心に運営を図っておりますので、会員の皆様にもご理解と暖かいご支援・ご協力をお願い致します。二〇二五年には当会創立後「二二〇年」の節目の年を迎えますので、「指定財産」の充実を図ると共に会員相互の交流や親睦の機会や活動の場を増やせる様に工夫して参りたく考えておりますので、忌憚のないご意見・ご提案をお寄せ頂ければ幸いです。

国内では、平成天皇陛下が上皇となられ新天皇のご即位が行われ、元号が「令和」と改められました。引き続き安倍晋三首相の政治体制の下に諸政策が推進されており、経済面では東京オリンピックが開催され、諸外国よりの訪日も増進し、その恩恵に浴することが期待される所であります。

海外に目を向けてみますと、米国内トランプ大統領の不安視される政権運営、英国のEU離脱の動き、中国の軍事・経済での突出や北朝鮮問題、等々と不安材料が沢山あり、日本を取り巻く環境は一段と厳しいものがあります。この様な時にこそ足元を見詰め直しながら、自らの出来る事を着実に手掛けて行くべきと考えます。

新たな「令和」の時代を迎えたので、「違いの判る人間を育成する教育への支援」を継続し、行田から日本、世界の将来を担う人々を輩出できる様に「一燈照隅」の想いで事業を推進・継続して参りたいと存じますので、皆様には更なるご理解、ご協力とご支援を頂戴致したく、宜しくお願い申し上げます。



松平会長 進修館高校にて「行田学」講演

事務局 局長 報告



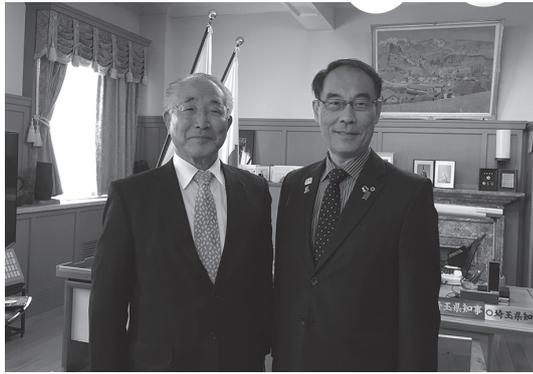
事務局 局長 矢澤 大和

旭日小 綾章 受章  
鈴木秀憲 副会長

秋の叙勲が十一月三日付で発令され、本会鈴木秀憲副会長（元行田商工会議所会頭）が、旭日小綾章を受章されました。鈴木副会長は、行田商工会議所会頭（二期・平成十六～二十二年）として、行田市の商工業の発展に寄与されました。衷心よりお祝いを申し上げます。なお、令和二年一月開催の賀正会におきまして、慶弔に関する内規に従い、祝意を表します。



新埼玉県知事  
松平会長が表敬訪問



松平忠昌会長 大野元裕知事

令和元年十一月十五日、松平忠昌会長、大野年司理事の二名に随行、本年八月二十五日に行われた埼玉県知事選挙で当選された大野元裕知事へ表敬訪問をさせていただきました。

た。これは、大野年司理事が、大野知事と縁戚関係にあることから、実現したものです。

第一印象「若い！」五十七歳です。「テンポが速い」。松平会長からの忍郷友会の説明を聴きながら相槌を打ち、数字も含め理解してしまおう。話の滞りがありません。しかもとても「気さくな」方でありました。

それに加え、学卒後は、外務省勤務、参議院議員二期と、正に国政の両側を経験されており、これからの埼玉県のリーダーに相応しい方との印象を強くいたしました。

帰り際「今日夕方、夕刊に間合うかな？行田の方には素晴らしいニュースがありますよ」と。そうです、埼玉古墳群を国の特別史跡に指定の朗報でした。

松平会長「行田学」講師に  
埼玉県立進修館高校

あれは一年近く前の事だと思えます。須郷和美理事から一通の封書を受け取りました。差出は、埼玉県立進修館高等学校となっています。ご承知のように忍藩の藩校は「進修館」であり、藩校名を引き継いでいる高校です。内容は、進修館高校一年生に総合的な探究の時間「行田学」と言う科目を作り一年間をかけて行田

の事を総合的に学ぶ。その授業の一環として「忍藩の事、松平家の歴史」などの講義をしてほしいとの要望でした。当初は、松平忠昌会長は若干の躊躇もあつたようですが、お引き受けになりました。

さて、日にも迫り講義日近くなり松平会長より当日配布の資料のデータが送られてきました。ナ・ナ、何と五十ページ近い大作。しかもカラーページが三分の一。若い世代に対する会長の熱意に改めて敬服した次第です。資料の印刷をしていた大谷評議員には、諸事大変なご協力をいただきました。

令和元年九月二十四日午後二時二十五分、いよいよ「行田学」講座の始まりです。同校四階の産社室に集合した総合学科二百名の生徒さんを前に八十分の講義が始まりました。

と言うことで、進修館高校総合学科一年の代表の方の感想文を掲載させていただきます。

なお、これからも講師派遣依頼が想定されますので、山本委員長のご理解をいただき、講師派遣事業は、令和二年度より「忍歴史塾」の管轄事業とさせていただきます。

埼玉県立進修館高校

「行田学」会長講演 感想文



進修館高等学校  
1年2組  
関根 早紀

今日、講演を聞いてみて松平氏の歴史についていろいろ知ることができました。中でも道頓堀をほらせたのが松平氏ということをはじめて知りました。ほかにも多くの活躍をしていておどろきました。

また、進修館高校は忍藩の藩校の名前がついていますが、進修館のほかにも十六以上の藩校があり、すべての名前がかっこいいなと思いました。また、各藩校の学則で、「うそを言い事はなりません」、「卑怯な振る舞いをしてはなりません」、「弱いものをいじめてはなりません」というものがあり、とても良いなと思いました。今の私たちは、これらのことを守れる人があまりいないのではないかと思います。ですが、私はこれらをこれからも守っていきたいと思いました。

また、今求められるものでアナログVSデジタルという項目がありました。松平さんの「デジタルを使う人はアナログでなければなりません」という言葉がとても共感しました。今の私たちは毎日スマホやゲ

ーム機、パソコンなどを使っていますが、それが使えなくなったら、たえられないと思いました。なんでもかんでもデジタルになるのではなく、アナログの部分を残して生活できるようにしたいです。



進修館高等学校  
1年1組  
大塚 愛菜

今、私たちがほぼ毎日のように来て学習している進修館は藩校として設けられたことが分かりました。このことはとても誇らしいことだと思おうので、これからも自信を持って進修館生だと言えるようにすると同時に恥かしくない行動を今よりもっと意識していこうと思います。江戸時代の話で人口がだんだんと増えていったのは、生活が安定してきて住みやすくなってきたからだと分かりました。松平さんが言っていたように出逢いを大切にしたり日本人として恥かしくないような行動・言動を心がけること、日本人の代表だと意識していけるようにしていきたいです。又、最後に言っていた、やれば何でも出来るということを感じてこれか

らも色々な事に挑戦していきたい。これからの日々を大切にして過ごしていきたいです。



進修館高等学校  
1年3組  
中山 碧菜

今の松平忠昌さんが十六代目で孫もいて十八代目までいることを知って、天正の時代から代々受け継がれている松平家を大切にしている、昔の記録もしっかり残されているのはすごいなと思ったし、松平家をその親族の方々が大切にしているんだなと感じました。

最後に松平忠昌さんがおっしゃっていた、出逢いについて自分の個性をみがきそれを大切にして下さい。出逢いを大切にして、出逢えたことに感謝する、出逢いがなければ何もおこらないということも教えてもらいました。これを聞いて、この学校に来て一年三組になり、部活に入り、たくさんの人と出逢って自分も少し変わったなと思いました。ここでみんなに出逢えたこと、友だちになれたことを大切にしたいなと思いました。あと四つの「キーワード」の話で、志を持ちそれを立てて知らないこと、必要なことを学び、愛を認識し、それを自分の課題にする、そして、たくさんすること、出逢いなどに感謝すること。この四つのことを言われ、高校

生活、これからの生活に大切だと思われました。特に「愛は自分の課題」と言われたとき、どういうことなんだろうと思いました。でも、親や友だち、先生などたくさんのお愛をもらっている私に、なくてはならない一生の課題なのかと思いました。今回の忍郷友会の講演で今まで知らなかった松平家のこと、これからの自分たちに必要で大切なことを学ぶことができました。本当に良かったです。



進修館高等学校  
1年1組  
松村 彩果

今日の講演で、江戸時代や戦争のことについて聞いた。中学校で習ったことをさらに掘り下げたような内容だった。藩校にも今みたいに厳しい規則があったとわかった。昔の習慣のようなものは現在も続いている。また、たくさんのお藩校があり、進修館という名前もそのうちのひとつだと知った。めったに藩校の名前が使われた学校はないと知った。行田にたつたひとつしかない高校だから、その名前を使うことで、歴史がある学校をイメージさせているのかと思った。また、松平さんは最後に「志を持って学ぶ」ことが大切と教えてくれた。何かひとつでも目標をもって挑戦したい。

# 平成三十年度 事業報告

## 1 会議

### (1) 総会

#### ① 定時決算総会

(会務報告、講演会、懇親会)

日時 平成三〇年六月二日(土)

参加者 四十五名

午後三時～午後七時三〇分

会場 行田市・ベルヴィアイトピア 来賓

行田市長代理

川島 将史 様

衆議院議員

野中 厚 様

衆議院議員

森田 俊和 様

埼玉県議会議員

鈴木 聖二 様

行田商工会議所名誉会頭

鈴木 秀憲 様

行田商工会議所会頭

小川 雅以 様

行田商工会議所副会頭

細井 保雄 様

行田さくらロータリークラブ会長

藤倉 武 様

(株)埼玉新聞社代表取締役社長

小川 秀樹 様

講演会講師

中島 洋一 様

松平忠昌議長より平成二十九年度の事業および決算、監査について報告があった

記念講演

「日本遺産と

行田市のストーリー」

講師 中島 洋一 様 (行田市教育委員会・文化財保護課長)

懇親会

#### ② 定時予算総会

(会務報告・賀正会)

日時 平成三十一年一月二十六日(土)

参加者 五十二名

午後三時～午後七時

会場 霞会館(霞が関ビル二十四階)

来賓

行田市長代理

川島 将史 様

衆議院議員

森田 俊和 様

(公社) 行田青年会議所理事長

三島 透 様

(公社) 行田青年会議所専務理事 大谷 祐一 様

(公社) 行田青年会議所監事 佐野 友昭 様

行田ロータリークラブ会長 碓井 勝也 様

埼玉浮き城プロバスケットボール顧問 須郷 隆 様

(株)埼玉新聞社代表取締役 小川 秀樹 様

ものづくり大学学長 赤松 明 様

忍藩主阿部家二十二代ご当主 阿部 正靖 様

早稲田大学名誉教授 村山 吉廣 様

講演会講師 東 瑞芳 様

松平忠昌会長より平成三十一年度の事業計画及び予算について報告があった  
講演 「松平家と菩提所」  
講師 天眼寺ご住職(当会計議員) 東 瑞芳 様

少年の主張  
優秀作品の発表と紹介  
太田東小学校 佐々木頼愛  
桜ヶ丘小学校 菊地 優那  
南河原小学校 吉野 恵南  
太田東小学校 益岡 未藍

### (2) 役員会

#### ① 理事・監事会

日時 平成三〇年五月七日(水)

午後一時三〇分～午後三時三〇分

会場 公益財団法人忍郷友会本部 事務所

#### 審議事項

1 平成二十九年度事業報告書 (案) について

2 平成二十九年度収支決算書 (案) について

3 定時総会・講演会・懇親会ご案内(案) について

4 総会・講演会・懇親会 タイムテーブル(案) について

5 予算総会・講演会・懇親会ご招待者(案) について

6 遊休資産の解消策について

7 新入会員承認の件  
評議員の任期満了に伴う改選の件  
以上慎重に審議され、承認された

#### ② 評議員会

日時 平成三〇年六月二日(土)

午後一時三〇分～午後二時五〇分

会場 ベルヴィアイトピア

#### 審議事項

1 平成二十九年度事業報告書の承認を求める件について

2 平成二十九年度収支決算書の承認を求める件について

3 評議員の任期満了につき新規選任の承認を求める件について

4 理事・監事の任期満了につき新規選任の承認を求める件について

新任評議員  
小菅 克祥  
井上 啓子  
田島 博夫  
山本 正幸  
小山喜一郎  
鈴木スイ子  
栗原 穂子

報告事項

新入会員承認の件について議決報告があった以上慎重に審議され、承認された

③理事・監事会

日時 平成三〇年九月十九日(水)  
午後一時三〇分～午後四時  
会場 行田市商工センター 四〇二号室

審議事項

1 平成三十一年度事業計画(案)について  
2 平成三十一年度予算(案)について

イ 「進脩塾」事業計画・予算(案)について  
ロ 「浮き城のまち行田少年の主張大会」事業計画・予算(案)について

ハ 「読書推進実行委員会」

事業計画・予算(案)について

3 新入会員承認の件

4 平成三十一年一月二十六日(土)開催の予算総会及び賀正会承認の件

5 評議員候補者について以上慎重に審議され、承認された

④評議員会

日時 平成三〇年十一月七日(水)  
午後一時三〇分～午後三時三〇分  
会場 行田市産業文化会館2階 第二会議室

審議事項

1 平成三十一年度(二〇一九年度)事業計画について  
2 平成三十一年度(二〇一九年度)予算について

イ 「進脩塾」事業計画・予算(案)について  
ロ 「浮き城のまち行田少年の主張大会」事業計画・予算(案)について

ハ 「読書推進実行委員会」事業計画・予算(案)について

二 「忍歴史塾」事業計画・予算(案)について

報告事項

新入会員承認の件、平成三十一年度(二〇一九年度)定時予算総会及び賀正会の件について議決報告

があった以上慎重に審議され、承認された

⑤持回り理事会

日時 平成三〇年七月六日(金)  
普通郵便に理事・監事宛郵送し、理事には賛否返信用はがき同封

審議事項

1 仮「進脩塾三〇周年記念事業委員会」設置承認の件  
以上賛成多数にて承認された

2 教育奨励事業

(1)進脩塾活動

①公開講座

藩校教育を現代に活かす  
「朗唱まつり」  
日時 平成三十一年二月二十三日(土)  
午後一時三〇分～午後四時  
会場 行田市教育文化センター 「みらい」

忍城偶成 忍藩子ども塾生・卒業生  
「論語・漢詩」素読 老本幼稚園児  
「琵琶行」素読 天眼寺親子素読教室 伊東知穂  
「論語・漢詩」素読 埼玉小学校児童 一一〇名  
「論語・漢詩」素読 忍藩子ども塾 塾生  
「論語・漢詩」素読 忍藩子ども塾 卒業生

「囚山亭百律」素読 埼玉中学校生徒 岩下有希  
「士規」吉田松陰素読 進修塾々生 (一般成人市民)  
アトラクション唄・演奏 行田音楽家協会  
受講者 二六〇名

②定例講座

四月二十八日 「孟子」 荒井 桂 先生  
八月二十五日 「孟子」 荒井 桂 先生  
十月二十七日 「孟子」 荒井 桂 先生  
十一月二十四日 「孟子」 荒井 桂 先生  
十二月二十二日 「孟子」 荒井 桂 先生

内容 進脩塾の目的、講義、受講者の感想、今日の論語から  
\*行田ケーブルテレビにて放映

③忍藩子ども塾素読教室の開催

日時 毎月第一、第二、第三土曜日  
午前九時～午前十二時  
場所 行田市郷土博物館講座室  
受講者 行田市内在住の小学生 五〇名  
指導者 田代敬二・奥田七寿・川田隆生・相馬詩子

内容 論語・漢詩の素読学習

④ 東京支部素読教室の開催

日時 毎月二回土曜日  
午後二時三〇分～午後三時三〇分  
場所 天眼寺(東京上野)  
受講者 天眼寺関係者 一〇名  
指導者 川田隆生  
内容 論語・漢詩の素読教室

⑤ 漢文検定試験の実施

日時 第一回 平成三〇年十一月十七日(土)  
第二回 平成三十一年三月十七日(土)  
午前九時三〇分～午前十二時  
場所 行田市郷土博物館講座室  
受験者 第一回 十一名(寺子屋編・藩校編)  
第二回 十名(寺子屋編・藩校編)  
編・藩校編)

⑥ 出前出張素読教室

対象 行田市立埼玉小学校全学年  
日時 毎週水曜日  
午前八時一〇分～午前八時三〇分  
指導者 田代敬二、奥田七寿・川田隆生  
内容 論語・漢詩の学習

⑦ 出前出張素読教室

日時 平成三十一年一月・二月  
(八回)

午後二時十五分～午後二時四十五分  
場所 老本幼稚園  
指導者 田代敬二・奥田七寿  
内容 論語・漢詩(朗唱まつり発表向)

(2) 「第三十三回・浮き城のまち行田少年の主張大会」優秀者表彰

日時 平成三〇年十一月十日(土)  
午後一時～午後四時三〇分  
場所 行田教育文化センター  
「みらい」文化ホール  
応募者 市内小・中学校児童生徒 一〇七四名  
発表者 二十四名 松平忠昌会長  
より記念品を贈呈した

(3) 読書推進実行委員会

読書推進実行委員会第十五回記念講演会  
「語りと朗読と読み聞かせ」  
平野啓子先生  
日時 平成三〇年九月八日(土)  
午後一時三十分～午後四時

場所 教育文化センターみらい  
第一学習室  
受講者 六十九名

(4) 忍歴史塾

郷土の歴史講座 忍藩松平家の歴史から江戸時代を検証する  
「第二回 江戸時代とは」  
松平忠昌会長

日時 平成三〇年五月二十日(土)  
場所 教育文化センターみらい  
第一学習室  
受講者 一一五名  
郷土の歴史講座 忍藩松平家の歴史から江戸時代を検証する  
「第三回 江戸時代の教育について」松平忠昌会長  
日時 平成三〇年七月二十一日(土)  
場所 教育文化センターみらい  
第一学習室  
受講者 一〇一名

3 会報75号の発行

会報七十五号を平成三十一年一月一日に発行  
全会員、市内各小、中、高校、幼稚園、保育園及び素読教室関係者に配布

4 第十六回全国藩校サミット金沢大会への参加

日時 平成三十年九月二十九日(土)～九月三十日(日)  
会場 舞鶴総合文化会館  
参加者 松平忠昌会長以下二十五名

5 慶 弔

お悔やみ申し上げます

丸山 和雄 様  
(平成三〇年三月七日ご逝去)

倉田 耕市 様  
(平成三〇年十一月十七日ご逝去)

齊藤 準一 様  
(平成三〇年十二月二十一日ご逝去)

6 会員増強対策

新入会者紹介(入会順)  
紹介者(松平忠昌)  
・世川 裕剛 様  
東京都町田市  
(株)トライテック  
・野中 厚 様  
加須市大越  
衆議院議員  
紹介者(矢澤大和)  
・森田 俊和 様  
熊谷市久保島  
衆議院議員

7 総会員数

二二四名  
(平成三十一年三月三十一日現在)

法人名：公益財団法人 忍郷友会 事業名：事業全体 自平成30年4月1日 至平成31年3月31日 決算

## 収支計算書

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差異
I 経常収益の部			
1. 経常収益			
① 基本財産運用収入			
基本財産配当金収入	100,000	123,750	23,750
② 受取会費			
正会員会費収入	2,200,000	2,110,000	△ 90,000
③ 事業収益			
総会事業収入	1,000,000	887,000	△ 113,000
進脩塾事業収入	600,000	458,020	△ 141,980
藩校サミット事業収入	0	1,080,850	1,080,850
④ 寄付金収入	1,000,000	1,000,000	0
⑤ 雑収入	300,000	400,026	100,026
⑥ 他会計からの繰入金収入			
積立基金取崩収入	0	0	0
経常収益計	5,200,000	6,059,646	859,646
2. 経常費用			
① 事業費			
総会事業支出	1,100,000	1,132,240	32,240
広報発行事業支出	380,000	287,880	△ 92,120
進脩塾事業支出	1,500,000	1,451,566	△ 48,434
少年の主張大会支援事業支出	422,000	417,029	△ 4,971
読書推進支援事業支出	350,000	295,564	△ 54,436
藩校サミット事業支出	600,000	1,628,439	1,028,439
その他の公益事業支出	100,000	404,860	304,860
通信運搬費支出	225,000	178,022	△ 46,978
消耗品費支出	75,000	97,017	22,017
雑費支出	225,000	207,992	△ 17,008
事務所賃借料支出	270,000	270,000	0
事務職員給料支出	630,000	558,064	△ 71,936
会議費支出	105,000	60,060	△ 44,940
旅費交通費支出	52,500	81,772	29,272
租税公課支出	0	0	0
慶弔費支出	37,500	7,500	△ 30,000
ホームページ維持費	70,000	240,000	170,000
その他の収益事業支出	0	0	0
事業費計	6,142,000	7,318,005	1,176,005
② 管理費			
事務職員給料支出	210,000	186,021	△ 23,979
会議費支出	35,000	20,020	△ 14,980
旅費交通費支出	17,500	27,258	9,758
通信運搬費支出	75,000	59,341	△ 15,659
消耗品費支出	25,000	32,340	7,340
雑費支出	75,000	69,331	△ 5,669
事務所賃借料支出	90,000	90,000	0
慶弔費支出	12,500	2,500	△ 10,000
その他の管理費支出	0	0	0
管理費計	540,000	486,811	△ 53,189
事業活動支出計	6,682,000	7,804,816	1,122,816
事業活動収支差額	△ 1,482,000	△ 1,745,170	△ 263,170
II 投資活動収支の部			
財務活動収支の部	0	0	0
IV 予備費支出	50,000	0	△ 50,000
当期収支差額	△ 1,532,000	△ 1,745,170	△ 213,170
前期繰越収支差額	1,718,000	4,087,044	2,369,044
次期繰越収支差額	186,000	2,341,874	2,155,874

(注) 予備費 使用せず

## 財産目録

(単位：円)

科目	金額
I 資産の部	
1. 流動資産	
現金預金	
現金手許有高	115,211
普通預金	265,493
郵便貯金	220,230
未収金	0
流動資産合計	600,934
2. 固定資産	
(1) 基本財産	
投資有価証券	8,123,475
基本財産合計	8,123,475
(2) 特定資産	
周年記念準備資金	1,740,940
1,740,940	
(3) その他固定資産	
固定資産合計	9,864,415
資産合計	10,465,349
II 負債の部	
1. 流動負債	
未払金	0
預り金	0
流動負債合計	0
負債合計	0
III 正味財産	
正味財産	10,465,349

有価証券の内訳

内訳： 東京電力株式 1,983株 (内登録株 19株)  
東京瓦斯株式 2,250株

## 支出の部の内訳書

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差異
事業費			
(総会費用)	1,100,000	1,132,240	32,240
(広報発行)	380,000	287,880	△ 92,120
(進脩塾)	1,500,000	1,451,566	△ 48,434
(少年の主張支援)	422,000	417,029	△ 4,971
(読書推進支援)	350,000	295,564	△ 54,436
(藩校サミット支援)	600,000	1,628,439	1,028,439
(その他の公益事業)	100,000	404,860	304,860
(通信運搬費)	225,000	178,022	△ 46,978
(消耗品費)	75,000	97,017	22,017
(雑費)	225,000	207,992	△ 17,008
(事務所賃借費)	270,000	270,000	0
(事務職員給与)	630,000	558,064	△ 71,936
(会議費)	105,000	60,060	△ 44,940
(旅費交通費)	52,500	81,772	29,272
(慶弔費)	37,500	7,500	△ 30,000
(ホームページ維持費)	70,000	240,000	170,000
(租税公課)	0	0	0
(その他の収益事業費)	0	0	0
小計	6,142,000	7,318,005	1,176,005
管理費			
(事務職員給与)	210,000	186,021	△ 23,979
(会議費)	35,000	20,020	△ 14,980
(旅費交通費)	17,500	27,258	9,758
(通信運搬費)	75,000	59,341	△ 15,659
(消耗品費)	25,000	32,340	7,340
(雑費)	75,000	69,331	△ 5,669
(事務所賃借費)	90,000	90,000	0
(慶弔費)	12,500	2,500	△ 10,000
小計	540,000	486,811	△ 53,189
合計	6,682,000	7,804,816	1,122,816
予備費	50,000	0	△ 50,000
合計	6,732,000	7,804,816	1,072,816

## 貸借対照表

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
現金	115,211	28,439	86,772
普通預金	265,493	2,133,795	△ 1,868,302
郵便貯金	220,230	203,870	16,360
流動資産合計	600,934	2,366,104	△ 1,765,170
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
投資有価証券	8,123,475	7,161,405	962,070
(2) 特定資産			
周年記念準備資金	1,740,940	1,740,940	0
(3) その他固定資産	0	0	0
固定資産合計	9,864,415	8,902,345	962,070
資産合計	10,465,349	11,268,449	△ 803,100
II 負債の部			
未払金	0	0	0
預り金	0	20,000	△ 20,000
負債合計	0	20,000	△ 20,000
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産	0	0	0
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	10,465,349	11,248,449	△ 783,100
(8,123,475)	(7,161,405)		
正味財産合計	10,465,349	11,248,449	△ 783,100
負債及び正味財産合計	10,465,349	11,268,449	△ 803,100



令和元年度 会員名簿

法人会員

- (株)シンセイ開発
- (有)羽生モータースクール
- 医療法人 葦の会
- (株)碓井測研
- (株)有斐閣
- 小川工業(株)
- 大野建設(株)
- 税理士法人大久保会計公認会計士
- (有)中央百貨店
- ガクヤ(株)
- 小山商事(株)
- (株)清水アーネット
- (株)協同バス
- 税理士法人森経理事務所
- (株)ファイブイズホーム
- (株)サンワックス
- (合資)青美矢沢商店
- 山本商事(株)
- (株)ヨコカワ
- 渡辺(株)
- (株)行田ガーデン
- 山本食品工業(株)
- (株)ジム
- (株)八木橋百貨店
- (株)十萬石ふくさや
- (株)ケイマス
- (株)リノン

- 新井 誠
- 五十幡和彦
- 石井 義則
- 碓井 勝也
- 江草 忠敬
- 小川 雅以
- 大野 年司
- 大久保 毅
- 奥貫 健一
- 川辺 秀夫
- 小池 俊輔
- 小山 博
- 清水 龍男
- 鈴木 秀憲
- 府川 吉延
- 細井 保雄
- 山田 晃
- 矢澤 大和
- 山本 憲作
- 横川 福治
- 渡辺 久記
- 稲垣 功一
- 山本 正幸
- 八木原 保
- 八木橋 宏貴
- 横田 康介
- 黒淵 陽夫
- 新井 啓介

正会員

- 青柳 憲助
- 阿部 秀二郎
- 安部 節子
- 石井 直彦
- 伊藤 秀一
- 今井 福司
- 丑久保紀美
- 大澤 孝至
- 大谷 文孝
- 小倉 佐江子
- 小幡 和佑
- 柿沼 貴代
- 粕谷 悦昭
- 加藤 元三
- 鴨田 武
- 川島 亨
- 岸田 昌久
- 国本 哲秀
- 小久保和子
- 小菅 恵一
- 小林 友明
- 斉藤 哲夫
- 坂本 光代
- 島崎 政敏
- 進修館高校
- 鈴木 佳代子
- 鈴木 淳一
- 世川 進
- 関田 悦男
- 滝澤 布沙
- 田中 利幸
- 戸ヶ崎直司
- 長島 康雄
- 赤松 明
- 新井 重人
- 飯田 芳幸
- 井田 秀機
- 伊藤 和江
- 岩佐 博之
- 江原 史郎
- 大嶋 康三
- 岡田 則之
- 小澤 光太郎
- 折井 幸子
- 柿沼 貴志
- 片桐 章雄
- 加藤 一夫
- 鹿山 高彦
- 川鍋 和史
- 木嶋 清
- 久保田 春明
- 木暮 照子
- 小林 一好
- 小松 和弘
- 榊原 政樹
- 佐藤 彰展
- 清水 孝男
- 杉田 禮三
- 鈴木 敬一郎
- 鈴木 貞二郎
- 世川 裕剛
- 関根 俊一
- 田島 正雄
- 津田 馨
- 富田 久雄
- 長島 豊
- 秋山 佳子
- 新井 宏幸
- 井桁 浄繼
- 伊東 大輔
- 井上 啓子
- 岩田 讓啓
- 江森 保
- 太田 幸雄
- 小川 秀樹
- 小澤 誠邦
- 香川 宏行
- 風間 敏弘
- 加藤 憲一
- 加藤 誠一
- 川島 清実
- 岸 誠太郎
- 木村 忠夫
- 倉田 君子
- 小島 敏男
- 小林 義和
- 斎藤 慶一
- 坂田 敬子
- 佐野 友昭
- 清水 威男
- 須郷 隆
- 鈴木 茂
- 鈴木 寿子
- 世川 祐多
- 高橋 弘行
- 田代 克太郎
- 葛 久子
- 中川 忠昭
- 中西 忠夫

- 長野 武俊
- 根岸 友憲
- 野中 厚
- 蓮見 牧子
- 島山 貞子
- 半田 太
- 藤倉 武
- 古市 恒裕
- 町田 祥子
- 松野 史郎
- ミカミヒロシ
- 武笠 勇
- 森 安正
- 山岸 泰輔
- 吉田 幸一
- 渡辺 幸子
- 中山 孝文
- 野口 啓造
- 野村 正幸
- 長谷川 昌夫
- 島山 恒雄
- 平井 武夫
- 藤澤 行夫
- 古沢 勇治
- 松井 正俊
- 松本 太郎
- 水谷 良二
- 村賀 英介
- 森田 俊和
- 山田 映子
- 吉田 豊彦
- 渡辺 邦道
- 新島 璋記
- 野口 浩一
- 橋本 祐一
- 長谷川 盛雄
- 羽鳥 弘
- 平井 ユリ枝
- 藤田 敬
- 細谷 茂樹
- 松平 由美子
- 松本 安夫
- 水野 武久
- 最上 絹江
- 梁瀬 里司
- 横田 保良
- 若松 良一

(令和二年十二月一日現在)

伊澤 尚樹 (群馬銀行行田支店長)  
 山口 修 (埼玉県信用金庫行田支店長)  
 爲貝 正博 (埼玉りそな銀行行田支店長)  
 小森谷賢一 (武蔵野銀行 行田支店長)

# 令和元年度 事業行事経過メモ

## 1 会議

### (一) 総会

#### ① 定時総会開催

(会務報告、講演会、懇親会)

日時 令和元年六月八日(土)

参加者 四十五名

午後三時～午後七時三〇分

会場 ベルヴィアイトピア

来賓

衆議院議員 野中 厚 様

衆議院議員 森田 俊和 様

埼玉県議会議員 柿沼 貴志 様

行田市議会議員 香川 宏行 様

行田市教育委員会教育長 鈴木トミ江 様

行田ロータリークラブ次期会長 小椋 剛 様

行田さくらロータリークラブ会長 時田 忠彦 様

埼玉浮き城プロバスクラブ会長 大久保 毅 様

(株)埼玉新聞社代表取締役社長 小川 秀樹 様

行田市郷土博物館友の会会長 清水 威男 様

特別招待者 小池ミチ子 様

名誉理事 渡邊 榮一 様

名誉理事 小山 博 様

講演会講師 塚田 良道 様

松平忠昌議長の議事進行により、平成三〇年度の事業および決算、監査について報告を行なった。

記念講演 大正大学文学部教授 塚田 良道 氏

講師 塚田 良道 氏

演題 「石田三成と忍城」

### (二) 役員会

#### ① 理事・監事会

日時 令和元年五月十三日(月)

午後一時三〇分～午後三時三〇分

場所 公益財団法人忍郷友会本部

事務所

審議事項

1 平成三〇年度事業報告書(案)の承認を求める件について

2 平成三〇年度収支決算書(案)の承認を求める件について

3 評議員会開催の承認を求める件について

4 定時総会・講演会・懇親会(案内(案))について

5 定時総会・講演会・懇親会  
タイムテーブル(案)について  
総会・講演会・懇親会ご招待者リスト(案)について

6 名誉理事承認の件について

7 新入会員承認の件について

8 支部長重任承認の件について

9 評議員会

日時 令和元年六月八日(土)

午後一時三〇分～二時五〇分

会場 ベルヴィアイトピア

審議事項

1 平成三〇年度事業報告書について

2 平成三〇年度収支決算書について

3 理事の任期満了につき理事改選の承認を求める件について

4 新評議員候補の承認を求める件について

午後一時三〇分～午後三時三〇分  
会場 行田市商工センター四〇二号室

審議事項

1 令和二年度事業計画について

2 令和二年度予算について

3 新入会員承認の件

4 予算総会及び賀正会承認の件

## 2 教育奨励事業

### (1) 進脩塾活動

#### ① 忍藩子ども塾素読教室の開催

日時 毎月第一、第二、第三土曜日

午前九時～午前十二時

場所 行田市郷土博物館講座室

受講者 行田市内在住の小学生

五〇名

指導者 田代敬二・奥田七寿・川田隆生・相馬詩子

内容 論語・漢詩の素読学習

### ② 東京支部素読教室開催

日時 毎月二回土曜日

午後二時三〇分～午後三時三〇分

場所 天眼寺(東京上野)

受講者 天眼寺関係者 一〇名

講師 川田隆生

内容 論語・漢詩の素読教室

### ③ 漢文検定試験の実施

日時 令和元年十一月十六日(土)

午前九時三〇分～午前十一時三〇分

場所 行田市郷土博物館講座室  
受験者 二十五名

寺子屋の部 初級18名  
中級6名 全員合格  
藩校編の部 二段1名  
(中学生レベル)合格  
小学六年生 大木真優  
令和二年三月  
日 時 第二回漢文検定試験実施  
予定



漢文検定

④ 出前出張授業

対象 行田市立埼玉小学校全学年  
日 時 毎週月曜日  
午前八時一〇分～午前八時三〇分  
講 師 田代敬二、奥田七寿・川田隆生  
内 容 論語・漢詩の学習

⑤ 進脩塾創設三〇周年記念事業

「人生を心豊かに過ごすための人間学講座」  
講 師 荒井 桂 先生

(公財)郷学研究so・安岡正篤  
記念館副理事長兼所長)

第1講

日 時 令和元年二月二十五日(土)  
会 場 行田市商工センター  
四〇一号室

受講者 一〇四名

第2講

日 時 令和元年六月二十九日(土)  
会 場 行田市商工センター  
四〇一号室

受講者 七十一名

第3講

日 時 令和元年七月二〇日(土)  
会 場 行田市商工センター  
四〇一号室

受講者 七十四名

第4講

日 時 令和元年八月十七日(土)  
会 場 行田市商工センター  
四〇一号室

受講者 六〇名

第5講

日 時 令和元年十月五日(土)  
会 場 教育文化センターみらい  
第一学習室

受講者 六十六名

第6講

日 時 令和元年十二月二十一日(土)  
会 場 行田市商工センター  
四〇三号室

全10講の予定

口 教養文化講演会「天眼寺所蔵資料と太宰春台の墓碑」

講 師 村山 吉廣 先生(早稲)

田大学名誉教授・中国古  
典学専攻)

日 時 令和元年十一月二日(土)  
会 場 天眼寺講堂

受講者 九十一名

(2)「第三十四回 浮き城のまち行田少年の主張大会」優秀者表彰

日 時 令和元年十月二十六日(土)  
午後一時～午後四時三〇分

場 所 行田市産業文化会館 ホール

応募者 市内小・中学校児童生徒  
応募総数 一〇七二点

発表者 二十四名 松平忠昌会長  
より記念品を贈呈した

(3) 読書推進実行委員会  
第十七回講演会開催

「子どもと本とをより良く結びつけるために」全三回シリーズ

講 師 大井むつみ 先生

日 時 令和元年九月七日(土)  
午後一時三〇分～午後三時三〇分

場 所 教育文化センターみらい  
第一学習室

受講者 七十五名

第二回 「全ての子どもに本は届いているか」パート1

日 時 令和元年十二月十四日(土)  
午後一時三〇分～午後三時三〇分

会 場 教育文化センターみらい  
第一学習室

第三回(予定)

「全ての子どもに本は届いているか」パート2

日 時 令和二年二月二十九日(土)  
会 場 教育文化センターみらい  
第一学習室

(4) 忍歴史塾

郷土の歴史講座  
「郷土の偉人 大澤龍次郎翁との思い出」

日 時 令和元年六月三〇日(日)  
場 所 教育文化センターみらい  
第一学習室

講 師 江利川 毅 氏

受講者 一二四名

3 会報76号の発行

会報七十六号を令和二年一月一日に発行

全会員、市内各小、中、高校、幼稚園、保育園及び素読教室関係者に配布

4 第17回全国藩校サミット  
萩大会への参加

日 時 令和元年十一月三〇日(土)  
十二月一日

会 場 萩市民館

参加者 松平忠昌会長以下二〇名

5 慶 弔

① 叙勲・褒章受章

鈴木 秀憲 様  
令和元年十一月三日  
旭日小綬章

②お悔み申し上げます

綿貫 守男 様  
(令和元年七月九日ご逝去)  
今津 利之助 様  
(令和元年五月十九日ご逝去)

時田 忠彦 様  
(令和元年十一月九日ご逝去)  
諸貫 健一 様  
(令和元年十二月四日ご逝去)

6 会員増強対策

新入会者紹介(敬称略 入会順)

- 紹介者(奥田七寿) 藤澤 行夫 様 鴻巣市宮前
- 紹介者(矢澤大和) 山岸 泰輔 様 行田市城西 (有山岸石材)
- 佐野 友昭 様 行田市南河原
- 行政書士さほう法務事務所 榎原 政樹 様 行田市城西
- 元テルウェル東日本(株) 紹介者(小林晴夫) 佐藤 彰展 様 北足立郡伊奈町
- 元本庄県土整備事務所 紹介者(平井武夫) 太田 幸雄 様
- さいたま市中央区

(株)アルーサインパクト代表取締役  
井田 秀幾 様  
さいたま市三橋

(株)シンセー 取締役総務部長  
紹介者(伊藤和江) 加藤 憲一 様 鴻巣市榎戸

7、予定

○令和二年度 定時予算総会  
日時 令和二年一月二十五日(土)  
会場 霞会館

○市民公開講座

藩校教育を現代に活かす「朗唱まつり」  
日時 令和二年二月十六日(日)  
場所 行田市産業文化ホール

○読書推進実行委員会 講演会

子どもと本とをより良くむすびつけるために(第三回)

日時 令和二年二月二十九日(土)  
場所 行田市教育センター「みらい」第一学習室

○令和元年度 定時決算総会

日時 令和二年五月二十五日(月)  
場所 ガーデンパレス

○第十八回全国藩校サミット

壬生大会開催  
令和二年十一月二十一日(土)・二十二日(日)

第三十四回 浮き城のまち行田 「少年の主張大会」

少年の主張 委員長 瀬山 文孝



令和元年十月二十六日(土)十三時より行田市産業文化会館ホールにて、第三十四回浮き城のまち行田「少年の主張大会」が開催されました。

この大会は市内の小・中学校の代表者が日常生活を通して考えていることを市民に発表するもので、青少年健全育成を図るために、行田市教育委員会・青少年育成行田市民会議が主催し、(公財)忍郷友会が後

援となり毎年開催しています。昭和六十一年度の初回から今年まで三十四回目になります。今回の発表者は市内小学校六年生十六名と中学校三年生が八名の合計二十四名の児童生徒が参加しました。なお、今回の大会には当財団の矢澤理事のお孫様も中央小学校代表として参加されていたことも申し添えておきます。今年のテーマは家族・言葉・将来の夢・日常生活の中で感じること・など多岐にわたるテーマで力強く発表していただきました。主催者を代表して行田市教育委員会 教育長の鈴木トミ江さまのご挨拶があり、来賓挨拶では当財団松平会長よりご挨拶をいただきました。松平会長からは、「この三十四回大会が無事開催されたことにお祝い申し上げます。一方で過日の風水害で被害にあわれた方々にお見舞い申し上げます。皆さんにとって初めてのこの主張大会に挑戦している姿に敬意を表します。また、行田市がこの

大会を大切に維持運営され、継続的な風土を築かれていることに感銘を受けています。最後に皆さんに四つのキーワードを送ります。一つ目は「志」を立てること、皆さんはすでにここに立つことでそれを体現することとなった。二つ目として志を立てるためには「学び」が必要である。三つ目は学びを支える「愛」です。皆さんは周りの人たちから愛されていることを自覚し大事にしてください。そして最後の四つ目は「感謝」世界に目を向ければ皆さんの享受している環境は非常にまれであり、大事にしていきたい。とのメッセージを頂きました。

本年も優秀者は即日発表となり表

## 忍郷友会会長賞三作品を紹介します

### 忍郷友会会長賞 小学校の部

# おばあちゃんから学んだこと

行田市立西小学校六年 井上愛梨

四月三十日、平成最後の日の夜、予想もしていなかったことが起こりました。それはおばあちゃんとのつ然のお別れ。二日前に会った時は、

「来年は中学生だね。自転車も買わないとだね。もう少しがんばれば愛梨の成人式まで見られるね」

表彰が授与され、発表者全員に副賞として忍郷友会松平会長から「広辞苑」を授与いたしました。

なお、優秀者の内小学生の一人が次回賀正会にて発表していただきますのでどうぞお楽しみにしてください。

当会からは松平会長・岩崎監事・加藤監事・渡邊名誉理事・小川理事・矢澤理事・新井理事・須郷理事・川田理事・橋本理事・瀬山理事・奥田評議員・増田事務局員の参加を頂きました。

来年の三十五回の大会にも多くの会員の参加をいただければと思っています。是非、子供達の生の発表をお聞き下さい。



と言っていたのに。

私の父は男三人兄弟で、おばあちゃんは女の子の孫をことの外喜んでいたそうです。生まれる前から、母の体調を気づかい、もうすぐ生まれそうかい、と毎日聞いていたそうです。母が仕事に復帰し、私は生後三か月目からおばあちゃんと一緒に過ごす時間が増えました。

ようち園や小学校に通うようになって、その生活は続きました。とても料理が上手だったのでお昼には食べきれないほど、たくさんご飯を作ってくれました。おかげで、苦手だった煮物、ピーマン、じゃがいもなどたくさんのお物が食べられるようになったになりました。また、発表会や運動会には、毎年多くのおかずを持って来てくれ、応えんしてくれました。

「すごかったよ。上手だったね」  
とほめてくれました。それがうれしくて私は一生けん命がんばりました。

しかし、今年はおばあちゃんのいない運動会。私の演技を見てほしかったな、見ていたら何て声をかけてくれたかなと思ひ、おばあちゃんの明るい声や笑顔を思い出しながら全力で競技や係の役割を頑張りました。

先日、おばあちゃんの家を整理していたらカレンダーやチラシの裏にかいた私の絵が、何十枚も出て来ました。日付や「愛梨四才」とまで書き残してありました。遊びながら適当にかいた絵なのに、大事にとっておいてくれたなんて、それだけ私を大切にしてくれていたと気づき、胸がしめつけられる思いでした。

また、おばあちゃんの家から持ってきたぬか床は私達家族の宝物になりました。毎日かき混ぜています。おばあちゃんが育てていた野菜が実り、食卓につけ物として並びます。ぬか床を見ると安心します。まるでおばあちゃんが、ちょこんとそこにすわっているかのようです。

おばあちゃんは戦争中に生まれ、幼い弟や妹の子守と家の手伝いをして、ほとんど学校に行きませんでした。漢字を書いたり読んだりするのも、裁ほうも全部独学で覚えたそうです。おばあちゃんに小さい時の夢は何だったのか聞いた事がありました。

「子どものころは、とにかく学校に

行きたかったよ。学校に行ける子がうらやましかったね。勉強を教わってみたかったよ」と話してくれたことがありました。さらに「学校に行けるだけで幸せなんだよ。友達だつてたくさんできるしね。だから友達は大切にするんだよ。今は、やりたい事が自由にできる時代にな

忍郷友会会長賞 小学校の部

行田の未来は、ぼくたちの手で

行田市立北小学校六年 川崎 未翔

つたからね。何でも挑戦してごらん」と、言っていました。今、私はその言葉の意味をかみしめています。おばあちゃんのように家族や周りを笑顔で包む温かい人、困難にも負けない勇気のある人、努力と挑戦を続ける人になっていきます。おばあちゃん、応援してください。

ぼくには夢があります。今年、市制七十周年を迎えた行田の名前を世界に広めることです。

行田市は歴史が古く、自慢できるものがたくさんある素晴らしい町です。「のぼうの城」で映画化された忍城や、「陸王」でドラマ化された行田の足袋は、埼玉県内初の日本遺産に認定されています。また、たくさんの方が写真を撮りに来る古代蓮や日本一の田んぼアートなども有名です。

海外からの観光客にも行田を知ってもらいたいという気持ちで、行田の歴史や忍城を中心にまとめました。今よりさらにたくさんの方に、行田のよさを広める方法を考えました。ぼくは料理が好きなので将来、調理師になりたいと考えています。そこで、行田の食材を使った料理を作り、お店などに呼びかけたいと思います。行田の特産品について調べると、青大豆と古代米がありました。詳しく知るために、はせがわ農園さんに取材に行きました。

青大豆は「行田在来青大豆」とい

うそうです。枝豆として食べると、香りと味が独特でもおいしいとおっしゃっていました。未成熟な大豆を枝豆として食べるのは日本だけらしいことを知り、とても驚きました。 「青大豆の枝豆を世界に広められれば、枝豆を食べる日本の文化と、行田の青大豆が世界に伝わることになる」という長谷川さんの言葉を聞いて、ぼくが青大豆を使った料理を作れば行田を世界に広められると思いました。



古代米を栽培している田んぼも見せていただきました。もみだけではなく、茎も黒い部分がありました。栽培していると近くの田んぼの米も黒くなってしまうそうです。そのため、他の田んぼのないところで育てなくてはならず、あまり量を増やせないそうです。青大豆も、改良品種ではないため台風が弱かったり種が落ちやすかったりと、収量が少なくなつてしまふそうです。それでも青大豆と古代米を栽培している長谷川さんは、すごいと思いました。

ぼくは、はせがわ農園さんの青大豆の大豆粉と古代米を使った料理を三つ作ってみました。大豆粉を使ったレンコンのかば焼き、大豆粉とカボチャのクッキー、古代米カレーです。かば焼きは、大豆粉を使うとふわつとしていて、とてもおいしくできました。クッキーは、大豆の味がしっかりとっていて、しっとりした食感でした。行田市をアピールするに当たって、大豆粉のお菓子も有効そうだと感じました。古代米「黒米」はもち米なので、炊き上がりがとてももちもちしていました。米がもちもちなので、カレーと米がよくからんでとてもおいしかったです。このように、地元の特産品や野菜を使ってたくさんさんの料理を開発していきたいです。

ぼくは、これからも行田の魅力をたくさん見つけて、多くの町行田の素晴らしさを世界中の人達に、食文化を通して発信したいと考えています。そして、行田を訪れる人達でいっぱいになっていきたいと思っています。ぼくたちの手で、行田の伝統や文化を、十年、百年たっても変わらずにつないでいきたいです。

## 忍郷友会会長賞 中学校の部

## 支えられる人に

行田市立見沼中学校三年 坂木 暖



「手術を受けないと、将来、呼吸障害が起こり、生活に支障が出ます」突然の言葉に、私は自分の耳を疑いました。今まで元気に生活してきたのに、「脊柱側湾症」という大きな病気を抱えていたことが信じられませんでした。去年の六月、学校での運動器検診でわかり、十月に受診した埼玉医科大学病院でのことでした。家族が側にいたので、すぐにその場で手術することを決めました。私は、手術に対する不安がありました。家族全員が「絶対大丈夫！」と励ましてくれました。

手術の日程が十二月に決まると、心と体の準備が始まりました。輸血の時自分の血液を使う自己血貯血を行ったり全身の検査をしたりしました。また、不安が残らないようによくターから詳しく説明してもらいました。

入院の一週間前、学校で帰りの会の後サプライズが待っていました。学年の仲間四十三人が千羽鶴を作ってくれたのです。私のために一ヶ月で作り上げ、応援してくれるみんなの気持ち嬉しくて、「頑張れる、私は一人ではない」と勇気が出ました。

手術は八時間かかりました。目が覚めると、まだ手術室にいました。目線の先には術前と術後のレントゲン写真があり、見たこともない物体が写しだされていました。私の背骨に金属ロッドがあつたのです。「終わったんだな」と安心した直後、とても痛い痛みが全身を襲いました。加えて薬の副作用で吐き気をもよお



しました。それがあまりにも辛くて何度も何度も弱音を母にぶつけました。「苦しい、辛い、助けて」「こんなことなら手術なんて受けなければ良かった」と。母は背中をさすってくれたり言葉を掛けてくれたりしました。今思えば、側にいた母もどんなに辛かったことでしょう。笑顔で励まし続けてくれた母の顔が今でも鮮明に残っています。次の日から、どんどん回復し、母が、「先生や友だちが心配して連絡をくれるんだよ」と伝えてくれる度に痛みが和らいでいきました。

二週間後、退院した日の喜びは今でも覚えています。その後は、コルセットを着用しての生活が半年続き

ました。半年間の運動禁止生活に耐えられるか心配でした。やはり、予想以上に大変でした。最初は慣れるまでに時間がかかりました。毎日母や友だちに荷物を運んでもらい、腰が曲げられず、思い通りに体を動かすことができずに、とても悔しかったです。そんな中、絶対に無理はしないという約束で、テニス部の活動に参加でき、気分が晴れやかにになりました。見学から始まりボール拾いの毎日でしたが、元気になった喜びを強く感じ、時間が過ぎるのがあつという間でした。今年の六月、コルセットが外れ、母と手を取り合つて喜び合いました。そして、周りのたくさんの人に支えられて生活してきたことに、改めて感謝しました。私には、看護師になりたいという夢があります。看護師は、看護を担う専門職であり、医師とともに医療が安全に行われるよう診療の補助をします。また、患者さんに寄り添い、心の面も支える重要な役割があります。今回、入院中に何度も何度も助けられました。看護師になるためには、国家試験を受けなければなりません。それがどんなに辛い道のりでもくじけそうになつても、努力し続けていきます。今度は、私が周りにいる人の支えになるために！

**第十七回全国藩校サミット萩大会に参加して  
新しい時代を切り拓くひとづくり  
藩校に学ぶ萩の「志」教育**

**藩校サミット萩大会**

第十七回全国藩校サミット萩大会は、令和元年十一月三十日(土)午後一時半、萩市民館で開催された。会場の前には、「萩・明倫学舎」が深い



平井武夫

歴史を湛えながらその威容を見せている。大会の実行委員長・毛利元敦氏が、ご挨拶の中で「この全国藩校サミットを通じ、萩(長州)藩の教育を今に継承し、志教育に繋がっていくことが我々の使命である」と述べたが、サミットの意義はその重い一言に尽きている。

教育は、一朝一夕に成すものではなく、また「過去」の記念碑でもなく、その本義は

「今」にある。そして、その結実を「未来」に繋げてこそ、時代を開く「人材」の輩出につながると信じた先人の無言の教訓が光っている。

今回、全国から萩に集った三十九藩校、二五〇人の参加者は、日本歴史を動かした志士の崇高な「志」と堅忍不拔の「行動力」を胸に刻んだ。

我が忍藩も、松平忠昌会長、鈴木副会長、矢澤事務局長以下二十名が参加し、今後の忍郷友会活動に生かすべく多くの事を学ぶ事が出来た。

萩藩校明倫館創建三〇〇年、明治維新一五〇年の佳節に先立ち、萩市が、人口減少局面に入った日本社会を打開するため、まちづくりを担う「萩市ひとづくり構想」を打ち出された意義は大きい。今再びの「維新」に向かう萩市の気概と気風を心に期したい。

オープニングは、「お船謡」の演唱。山口県指定無形民俗文化財の三六〇年の歴史の香りが会場内に広がった。

**記念講演**

記念講演「藩の学びと明治維新」と題して、東京大学史料編纂所教授 本郷和人氏が、明倫館の由来に言及、江戸時代の各藩の藩校の役割について鋭い考察を加えた。

恒例の旧藩当主紹介は、肅然とした雰囲気の中、会場は一挙に江戸時代に遡る。毎回のサミットのクライマックスである。

今回は、徳川宗家十八代の徳川恒孝氏に代わって、嫡子の徳川家広氏が初登場し挨拶に立たれた。その鋭い切り口から歴史の深部に触れた挨拶には、場内から賛同の拍手を浴びて、雰囲気は頂点に達した。

同氏は、萩大会に寄せての挨拶文で述べている。「ここで重要なのは、明治以後の日本の西洋化の一応の成

功が、江戸時代の文明化の過程なくしては不可能であったのと同様に、松下村塾の爆発的な活力も、毛利家、長州藩の長年にわたっての教育と人材育成の努力なくしてはあり得なかつたという事実です」と。藩校明倫館の明治維新に果たした役割の大きさを高く評価した。

**子ども文化活動**

続いては、さわやかな風が場内を包む。萩の子ども文化活動のパフォーマンスである。

- ① 論語素読(須佐育英塾)
- ② 松陰先生のことば朗誦(萩市立明倫小学校六年生)
- ③ 書道パフォーマンス(萩光塩学院高等学校書道部)





記念講演資料「藩の学びと明治維新」よりメモ

講師 東京大学史料編纂所 教授 本郷和人

身分も不明であった正成が、建武の中興を成し遂げた事が、吉田松陰を始めとする武士、武士でない家系の庶民から注目を浴び、その精神が明治維新の礎となったと言われている。その青年は、「それらの人々に正しい楠木正成像が伝わっており、萩市にはその心が今も脈々と受け継がれていると感じたため、萩市に来る事を決めた」と決意を述べてくれた。

歴史というものは、単なる「横軸」の時間の流れではない。「縦軸」に「横

軸」にと、更に、深き地下水脈の「底流」でつながって来る。立体的に組み合わさって来る。正成と松陰も然り、そこに現代の青年が、「志」を立てて、連なって来る。確かに、今回の萩サミットは、「松陰」が現代の少年少女の中に、その青年の中にその志を炙り出している様相を各所で垣間見た。萩の地は、このサミットを經由して、再び、人材育成への教育、時代変革への胎動を開始するであろう。晩秋の萩の空は、訪れる人を快く迎えてくれたのである。

藩校明倫館について

萩藩（長州藩）の藩校明倫館は、享保四年（一七一九）五代目藩主毛利吉元が創建。水戸藩の弘道館、岡山藩の閑谷齋と並び、日本三大学府と称される。長州藩は幕末に内高（年貢賦課の対象石高）一〇〇万石を数えた富裕藩のため藩士の教育に熱心であった。萩藩は「ひとづくり政策」に力を入れ、勉学はもとより剣槍術など文武両道の教育が行われた。孟子の「以って之を教うるはみな人倫を明

らかにする所以なり」から「明倫館」と名付けられ、学風は江戸の湯島聖堂を模範とした。幕末、有能な藩士を大量に養成する必要から、十三代毛利元親の命により、一万五一八四坪の新明倫館が城下町の中央に建設された。その総大門に掛けられた「容衆」の額は、「衆を容る」（多くの人を包容する）との名言である。この精神こそ、多事多難の連続を巧みに切り抜け、幕末維新の大きな原動力となった。

○日本列島の人口

西暦六〇〇〇年に人口六〇〇万人、千年後一六〇〇〇年に一二〇〇万人、それから百年後一七〇〇年には、二倍の二五〇〇万人、江戸時代の幕末に三〇〇〇万人に急増する。江戸時代の「平和の尊さ」が、人口増に結び付く。十年後をイメージして、人は勉強を始めた。

○寺子屋

幕末の安政から慶応にかけて十四年間に年間三〇〇の寺子屋が開業した。全国では、一六五〇軒、江戸で一〇〇〇一三〇〇軒が存在した。「読み書き算盤」が教えられた。

○藩校

諸藩が藩士の子弟を教育するため設立。藩士の子弟は半強制的に入学させられた。七―八歳で文を習い、十四―十五歳から二十歳で卒業。四書五経（大学・中庸・論語・孟子）の素読、習字、江戸後期には、蘭学、武芸（剣術）が加わった。

全国で、二五五校に上り、ほぼ全ての藩に設立。会津藩の日新館、米沢藩の興讓館、長州藩の明倫館、佐

賀藩の弘道館、熊本藩の藩校時習館、薩摩藩の造士館など。特に薩長の雄藩では、教育においても優位にあり、薩長土肥の連合では有力な人材を輩出した。

○地域における若者教育

地域が次世代の若者の教育を担った。知的エリートは、先ず医学を学ぶ。地域の先輩が資金を出し合い、有望な青年を長崎、大坂の塾に遊学させた。青年は各地で「人のつながり」を形成し、郷里に帰ると、医業に励むとともに、後進を育成し、郷里はその人脈で全国に開かれていった。

○吉田松陰 草莽崛起（そうもうくつき）

孟子の言葉を通して、松陰は、一般大衆が一齐に立ち上がることを期して、松下村塾で青年の教育に心血を注いだ。民衆は、江戸時代を通じて学び、その知的水準は上昇して、時代変革のエネルギーへと昇華していった。

# 進脩塾活動について

## 初心に還る



進脩塾主幹 田代敬二

初めは「いい街づくりとは何か」にありました。訪ねたずねて、めぐり逢ったのが古典の書「大学」でした。そこには街づくりとは人づくりであること、人づくりとは我づくりであることが明快に示されていたのです。

その我と我が心根を徹底的に練り堪える「道」なるものを求めて三十年を経ました。見えてきたのは「人格の完成」という五文字である人生の意義(人間は何の為に生きるのか)という大命題であります。「大学」「中庸」「論語」「孟子」を読むということは、単に知識としてそれを習得するということではなくて、我が身を通してその「道」なるものを実現することにあるわけです。いわゆる個の完成に依って周囲を明るくするとい

う「一灯照隅」の実を果たすことにあるわけです。これがいい街づくりの根幹となる考え方であります。今年進脩塾三十周年を迎えるに当たりまして、我々が今為すべくことは、この初心に立ちかえりまして、わが街わがふるさとを仁厚の街、徳育の街にしたいと強く念願するものです。大方の更なる賛意御協力と一歩ずつ積極的参加の程よろしくお願ひ申し上げる次第です。



## 忍藩子ども素読教室

中央小学校六年 大木 真優



素読を習っていた、よかつたと思つたことは、漢詩や論語を暗記して朗々ということができると、ときりとし

た気持ちになるところです。また、素読の発声法は、放送委員会の委員会活動でとても役に立っています。

私は、三月で素読教室を卒業してしまいます。ですが、素読で習ったたくさんのは、これからも生活に活かしていきたいです。また熱心に指導してくださった先生方には大変感謝しています。有難うございました。

大木 真優の母 大木 華子

長女は、三年生より素読教室に通い始めました。最初はお友達と一緒に大きな声で素読することが純粹に

子持ちよく、毎回の教室を心待ちにしていました。

中級以降は次第に内容にも興味を持ち、先生のわかりやすい解説に導かれ、いにしえの人々に思いを馳せているようでした。また、漢文検定も励みになっており寺子屋編を終了することができました。先生方の熱心な指導と忍郷友会の皆様のサポートに感謝しております。そして、今年度からは、一年生の次女もお世話になり始めました。覚えた論語を日常生活の中、姉妹で唱える様子は、たいへんほほえましく、同時に成長を実感します。六年生である長女は、長らく親しんだ素読教室も間もなく卒業となります。成長著しい小学生のこの時期に素読教室に出会えたことは、今後の人生における豊かな心の糧となったに違いありません。皆様への感謝の気持ちと学ぶ楽しさを礎に、少しでも貢献できる人に成長するよう家庭としても応援いたします。

## 天眼寺親子素読教室

お茶の水女子大学附属 中学校三年 伊東 知穂

小学校二年生の春、天眼寺で素読教室が開かれることを祖母から聞き、通い始めました。

うまく読めると楽しいので、予習



として次月に教室で扱う部分を声に出して読みながら覚え、先生に指名されたらすぐに発表できるようにしていました。

湯島聖堂

漢文検定に初めて挑戦したのは三年生の秋でした。先生方に準備を手伝っていただき、無事合格することができました。試験会場の聖堂からの帰りぎわに石川先生にお会いして小さな論語の本をいただき、合格後には教室で忍藩家紋のストラップをいただきました。今でもどちらも大切にしております。

行田で開催された「全国藩校サミット」にはリーダーの一人として参加しましたが、初めての大舞台で読みはじめての声がひっくり返ってしまつたと反省しました。埼玉小の当時の校長先生と、私の通う小学校の校長先生が同郷の友人というお話を聞き、後日校庭で「帰去来の辞」の暗誦を聞いていただきました。このような経験をおして人前で声を出すことに自信がつかしました。

中学校に入学後、両親の勧めがきっかけで朗読を始めました。漢文を繰り返し読んでいると情景が思い浮かぶようになります。朗読するときにも、同じように情景を描き、それを伝えようとこころがけて読んでいます。素読で培った私の声は、力みがなく自然で聞きとりやすいとほめてくださる方がたくさんいて、そのたびに嬉しくなります。次は、漢文検定五段に合格することを目標に、これからも素読に磨きをかけていきたいと思えます。

平成二十八年十一月

経歴

平成二十七年文京区朗読コンテスト

スト 青少年の部優秀賞

平成二十八年湯島聖堂漢文検定四段(藩校編上級) 全国最年少合格

平成二十八年第三十三回NHK杯

全国中学校放送コンテスト 朗読

部門優秀賞

平成二十八年第六十六回全国小・

中学校作文コンクール 東京都中

学校の部佳作

平成二十八年第八回古典の日推進

委員会朗読コンテスト中高生部門

大賞(中学生初受賞)

尚、目標であった湯島聖堂漢文検

定五段(藩校編終了)に本年一月見

事合格されました。

### 埼玉小「素読教室」

埼玉小学校 校長 佐藤 明彦



本校では、月曜日の朝の時間に「論語」や「漢詩」を子供たちが

声を合わせて素読しています。忍郷友会の奥田様、川田様にお越しいただき、子供たちには少し難しい内容でも丁寧に分かりやすく教えていただいています。先日、一年生の教室を覗いてみると、「偶成」を大きな声で元気よく唱えていました。

「少年老い易く 学成り難し 一寸の光陰 軽んずべからず 未だ覚めず 池塘春草の夢 階前の梧葉 已に秋声」

一年生の子供たちには、難しい言葉が並びますが、子供たちは精一杯、何度も声を出し、やがて、暗記して見なくても言えるようになっています。子供の覚える力に感心させられる瞬間です。意味についても、素読の先生方から、子供たちに分かるようにかみ砕いて解説していただいております。

本校の目指す学校像は、「だれもが夢と希望をもち、笑顔あふれる学校」〜埼玉プライドをもって行動する子の育成〜です。子供たちが夢を抱きながら、毎日笑顔で学校生活を送るためには、一人一人に思いやりの心が備わっていなければならぬと思います。思いやりのある豊かな心を育てるには、道徳や人権教育が重要ですが、本校では、素読教室も重要な役割を果たしています。前述のとおり、一年生には、少し難しい内容ですが、学年が上がるに連れて「論語」や「漢詩」の内容も少しずつ分かるようになってきます。そして、人が生きていく上で大切なことを学びながら、豊かな心も育まれていくものと考えます。また、素読教室をおこなっている学校は、行田市内では本校だけです。これは、本校の大きな特色でもありますし、子供たちにとっても誇りです。

私は、埼玉県名発祥の地であり、古墳等の歴史遺産が多く残るこの埼玉で育っている子供たちに、「埼玉プライド」をもたせ、何事にも自信をもって積極的に取り組む児童になってもらいたいと思っています。その意味でも、素読教室は、子供たちにとっても学校にとっても誇れるものの一つです。

### 忍藩子ども塾素読教室

平成十七年四月から漢文素読教室を幼児十三名で開塾、その後五年間の活動が行田市の眼にとまり、平成二十四年から教育委員会共催として「忍藩子ども塾素読教室」へと改称、塾生が一挙に増え、現在五十名程の在籍者となりました。今年六月の入校式では、森教育長から夏目漱石・森鷗外・福沢諭吉など多くの著名人が小さい頃から論語・漢詩を学び大成されたことをお話くださいました。子どもが論語や漢詩を暗唱する力は驚くべきものがあります。声に出した言葉を通して物事を理解し情緒を感得できる素読の楽しさをもっと多くの子供たちに広めたいと考えております。



教室では、初・中・上級に分かれたの講座にて、初心者でも安心して受講できます。

第一・第二・第三の土曜日 九時～十二時 行田市郷土博物館にて開講  
教材 寺子屋編テキスト／藩校編テキスト／湯島聖堂漢文検定試験委員

会編集／論語編／漢詩編／大学編  
公益財団法人 忍郷友会刊行  
(文責 川田隆生)

### 「人生を心豊かにおくるための人間学講座」の今後の日程について (お知らせ)

公益財団法人忍郷友会 進脩塾

本年の五月に開講いたしました「人生を心豊かにおくるための人間学講座」は、皆様のご理解とご協力をいただきまして、第五回目の講義まで終了し、これより後半の部となるところでございます。

つきましては、これからの日程につきまして決定いたしましたので、ここにお知らせいたします。

回	実施日	実施時刻	実施場所
6	12月21日(土)	14～16時	行田市商工センター403号室
7	2月22日(土)	同	同 401号室
8	3月28日(土)	同	同 401号室
9	4月25日(土)	同	同 401号室
10	5月16日(土)	同	同 401号室

皆様ご多忙のこととは存じますが、ぜひともご出席いただけますようお願い申し上げます。なお、講義の内容は若干変更される場合もございますので、ご承知おきください。

### 進脩塾開設三十周年記念講演会について

小林 晴夫

令和元年十一月二日、公益財団法人忍郷友会 進脩塾開設三十周年事業の一環として記念講演会を開催しました。講師は早稲田大学名誉教授村山吉廣先生、会場は谷中天眼寺本堂です。

東京谷中天眼寺で開催した理由は、忍藩士の寺であること、(公財)忍郷友会東京支部を八年前に設けたこと、同時に進脩塾親子素読教室を開き今日まで継続していること、そして松平家の菩提寺であることです。

講演会大筋は、綿々と続く松平家の歩みとその歴史と文化、塋域に眠る大儒太宰春臺(服部南郭撰文・東京都指定文化財)の墓碑(副碑を含む)の訓読及び解説、忍藩藩儒芳川波山、天眼寺の由来及び所蔵史料の翻字と解説を主といたしました。

講師は忍郷友会で度々講演を行なっていた漢学界の泰斗である村山吉廣先生にお願いました。また、天眼寺親子素読教室塾生を代表して伊東知穂さん(高校一年

生)による白居易の「琵琶行」の素読を行いました。

先ず開演に先だち松平会長の記念講演会開催に至った趣旨と当寺住職東氏の挨拶が為されました。

講演会出席者は、漢字文化振興協会常務理事、忍郷友会会員、天眼寺檀家及び仏教講座、早稲田大学村山教室、湯島聖堂江戸明治の漢学講座、藤原秀郷流小山氏三十五代当主、共栄大学副学長、白岡歴史を語る会、久喜市観光ボランティア、中島敦の会と姻戚、本多静六親戚等、遠くは水戸市、小山市からの参加もあり満席となりました。

講演内容は松平家十三代藩主忠公及び二代目忠弘公の妻藤姫を中心に、天眼寺の由来、山田家老、藩儒芳川波山、太宰春臺の墓碑と書軸、服部南郭、萩生徂徠、須原屋新兵衛、澤田東江、醉翁亭記と盛沢山の解説をしていただきました。特に寺号天眼寺は藤姫の法号を基に開基されたこと。忠弘公の夫人藤姫が熊本五十四万石、細川越中守忠利の女で

主権/公益財団法人 忍郷友会 東京支部

# 天眼寺

Tengenji

## 教養文化講演会

日時/令和元年11月2日(土) 開場 13:00 開演 13:30  
会場/天眼寺講堂 東京都台東区谷中1丁目2番14号 TEL:03-3821-7718  
[東京メトロ千代田線根津駅(出口1)より徒歩3分]

入場無料 先着120名

### 文化講演会 天眼寺所蔵資料と太宰春台の墓碑

天眼寺の歴史、太宰春台(荻生徂徠の弟子、経義は太宰、詩文は服部南郭)について

講師/村山吉廣先生 早稲田大学名誉教授(中国古典学専攻)

【プロフィール】  
1929年 埼玉県春日部市生まれ 1976年 早稲田大学文学部 教授  
1949年 春日部高等学校 卒業(第一留年) 1995年 客員教授として東京大学・埼玉大学に赴任  
1953年 早稲田大学文学部 卒業 2000年 早稲田大学を退職(名誉教授となる)  
1971年 早稲田大学文学部 助教授 2016年 国文学研究資料館 理事  
1975年 ロンドン大学東洋学 留学 日本経緯学会会長、日本中国学会理事も歴任

【著書】『高橋徳 芳川波山の生涯と詩業』(明徳出版社)、『論 一人を育てる伝統と風土』(明治書院)、『論語のこぼれ』(明徳出版社)、『名書の内側』(日本経済新聞社)、『中国の知恵』(読売新聞社)、『評伝-中島敦』(中央公論新社)、『書を学ぶ人のための漢詩漢文入門』(二玄社) その他多数

素読発表 天眼寺親子素読教室生徒による論語と漢詩

講演終了後に懇親会を天眼寺会館にて開催予定しております。[会費 5,000円]

お問い合わせ先/公益財団法人 忍郷友会 事務局  
TEL.048-556-9000 FAX.048-556-9007  
※電話での受付時間/火曜日と金曜日の10:30から16:00まで

あること。又、小生にとつては松平忠弘公に先祖の宗左衛門、与五兵衛が姫路、山形、宇都宮、白川等で仕えていたことと併せて学ぶことができ一週間後、細川家ゆかりの地熊本水前寺成趣園を訪れ歴史を振り返ることができました。

講師の村山先生は今回の講演に立ち度々天眼寺を訪れ墓域、墓石の調査、寺に所蔵されている多くの史料の調査と解説、東住職からの聞き取り等々多大な労力を費やされました。そして、まとめとして講演会資料を冊子として作成して頂きました。この冊子は、忍藩、忍郷友会、行田

市郷土博物館、天眼寺にとつて新たな貴重な歴史史料として付加されたことに大なる意義があったことでもあります。

村山先生には前日まで田原藩渡邊華山の調査旅行にも拘わらず、格調高い講演を行なって頂き、忍郷友会一同、深く感謝申し上げます。又、原稿なしの中国語で朗読された伊東知穂さんの将来にもエールを送ります。

### 進脩塾開設三十周年記念 人間学講座

川田 隆生

人生を豊かにおくるための人間学講座(受講料無料)が平成三十一年五月に十回シリーズとして始まりました。

第一回から第六回は、司馬光が約九百五十年前に生涯を懸けて記した歴史書「資治通鑑」の名言・卓論に学ぶ人間学講座です。本書は、古来多くのリーダーが指針としてきた歴史書として、日本でも多くの方々に読まれてきました。

第七回から十回は、論語・中庸・大學・孟子の四書から必要最小限の章句を撰びだし抄録として、そのエッセンスを講義する予定です。

講師の荒井桂先生は、公益財団法人郷学研究所長、月刊誌致知の人気講師であり、今回の教材は荒井桂先生著「資治通鑑の名言に学ぶ」です。

当初受講生募集は六十名でしたが荒井先生を慕う方々が多く、遠くは川越、日高からを含め百名を超える大講座となりました。

授業は初めての方でも分かりやす

くユーモアを交え、聖人と心を通わせてくれるとっても楽しい九十分間です。

始めの二十分は田代塾長による素読が行われています。

第五回を修了したところですが、資治通鑑の名言をもっと知りたい、学びたいとの要望が多数寄せられ、講義回数延長を検討中でありました。

孟子曰く「人間は田畑に肥料をやることは知っていても、自分の精神に肥料をやることは知らない。田畑に肥料をやれば穀物を収穫することはできるが、ただそれだけの事。精神に肥料をやれば徳を高めることができる、精神に肥料をやることは学ぶことである」

古典を学び徳望を磨き自らを高めることに努力を惜しまない方々へ本講座の受講をお奨めするものです。

# 第3回朗唱まつり

日時 平成31年2月23日(土) 午後1時30分～

場所 行田市教育文化センター「みらい」ホール



木鐸振鈴

木鐸は、古代中国で物事の始まりの時に鳴らされた鐘(鈴)



松平会長開会挨拶



聞き入る会場の皆様

木鐸の高らかな音とともに開会した第3回朗唱まつり。たくさんの来場者の方の声援を受け、日頃の努力をみんな精一杯発揮することができました。来場者の方、そして発表する側がお互いに目や耳、そして声だけでなく心もつながる機会がたくさんの中で見られたことが、このまつりの最大の喜びであり収穫となりました。今後も、一層の研鑽を続けてまいります。



明るく元気な老本幼稚園  
年長組の皆さんの素読

一人一人が真剣で、皆の声も  
そろそろ埼玉小学校の皆さんの素読



聴く者の心に語りかけてくる  
岩下友希さんの「因山亭百律」の素読

聴く者の目や耳をくぎ付けにする  
伊東知穂さんの中国語「琵琶行」素読



培ってきた力に加え風格も  
備わった子ども塾卒業生有志

自信をもって一生懸命に  
発表する忍藩子ども塾々生



行田市教育委員会吉田生涯学習部長ご挨拶と講評

生きること、学ぶことの大切さを  
しっかり学んでいる子が行田市は  
たくさんおり、これからの行田市  
の支えとして頼もしく思います。



(一社)漢字文化振興協会白石事務局長ご挨拶と講評

アトラクション  
心に染み入る歌  
と演奏を披露して  
いただいた行田音  
楽家協会の皆様



新井委員長閉会挨拶



進修塾々生の素読  
子どもたちに負  
けじと準備、練習  
をしてきた成果の  
程は、どうでした？

# 読書推進運動について

読書推進実行委員長 須郷和美

令和元年度読書推進実行委員会第十七回講演会を開催するに当り、今回は、読み聞かせボランティアの皆様にも、各クラブの読み聞かせ活動の取り組みや、問題点、課題等についてご意見をお聞きする懇談会を開きました。



そして出席者の方々から「県民と図書館の集い」で講師をされた「大井むつみ先生」の講演を是非とも一度お聞きしたいという声があり、三十年以上活動されている「たんぽぽ」さん、また「ふじみ野市立大井図書館」からもご紹介頂きました。先生は、埼玉県川越市生まれ、公共図書館司書を経て、大学非常勤講師や、子どもの本や読書に関する各種講座の講師を務めておられ、また、日本子どもの本研究会、自動図書館研究会、日本図書館協会、絵本学会の会員でもあられます。

矢澤事務局長、安部副委員長と共に先生にお会いし調整しました折、先生から第十七回は三回シリーズでどうかとの提案を頂きました。メインテーマは「子どもと本とをより良く結びつけるために」

全三回シリーズ  
第一回 令和元年九月七日(土)

本との出会い  
(絵本の読み聞かせを考える)

■ 読み聞かせボランティア スキルアップ講座 ■  
読書推進実行委員会 第17回講演会

## 子どもと本とをより良く結びつけるために

講師 / 大井むつみ先生  
埼玉県川越市生まれ。  
公共図書館勤務を経て、大学非常勤講師、子どもの本に関する各種講座の講師を務める。  
日本子どもの本研究会、児童図書館研究会、日本図書館協会、絵本学会会員。  
【著書】 絵本はバレット (郵研社)

先着80名 参加費無料

全3回シリーズ

第1回 <b>本との出会い</b> ～絵本の読み聞かせを考える～ 令和元年 <b>9月7日(土)</b> 午後1時30分～3時30分	第2回 [パート1] 第3回 [パート2]	全ての子どもに本は届いているか ～子どもと本を取り巻く環境を考える～ 令和元年 <b>10月12日(土)</b> 〃 <b>12月14日(土)</b> いずれも 午後1時30分～3時30分
--	--------------------------------	--

ところ 行田市教育文化センター「みらい」第1学習室  
〒361-0032 行田市佐間3-24-7 TEL.048-556-2649

読み聞かせのご経験のない方も歓迎いたします

お問い合わせ 申し込み先  
宮脇書店 行田店 TEL.048-554-6300 FAX.048-553-7500  
年中無休 / 営業時間 9:30～22:00 担当：大戸・田村

主催 / 公益財団法人 忍郷友会 後援 / 行田市教育委員会

第二回 令和元年十月十二日(土)  
全ての子どもに本は届いているか (パート1)  
子どもと本とを取り巻く環境を考える。

第三回 令和元年十二月十四日(土)  
(パート2)  
以上の日程で三回の講演を計画致しました。

第一回の講演会では、沢山の絵本を取り上げ子ども達にとって、どんなに絵本との出会いが大切かを豊富な知識と経験から、ユーモアを混じえた講演で参加者を魅了しました。第二回講演会(十月十二日)は台風

十九号の影響を受け中止とし、第三回に予定していた十二月十四日に行う事に致しました。

変更のお知らせを申込みいただいた方々に手分けして、電話にて連絡致しました。その時の皆さまの対応の優しさに実行委員一同感激致しました。

また第三回は令和二年二月二十九日(土)に行う事になりました。  
第二回、第三回に予定されている「子どもと本を取り巻く環境」についての講演もまた有意義なものになると思っています。



講師 江利川 毅氏

# 忍歴史塾 郷土の歴史講座 郷土の偉人「大澤龍次郎翁との思い出」を語る

副委員長 遠藤 初枝

日時 令和元年六月三十日(日)午後

一・三〇〜三・〇〇

場所 教育センター みらい 第一学習室

講師 江利川 毅氏

時折小雨の降る梅雨最中の六月三十日、みらい「第一学習室」において郷土の偉人「大澤龍次郎翁との思い出」というテーマで講演会を開催しました。講師には、大澤翁と小学生時代に、手紙のやりとりを通して交流を持たれていた江利川毅評議

員にお願いしました。

当日は、会場を埋め尽くす程の受講者が、郷土の偉人であり、行田市の名誉市民でもあった大澤龍次郎翁の郷土愛溢れる数々の事績や温情味のあるお人柄などを交えた講演に熱心に耳を傾けていました。

## 大澤龍次郎翁の足跡・事蹟

明治二十年行田市に生れ、十四歳で上京し、東京神田の木綿商問屋に就職、不断の努力と骨惜しみしない誠実な仕事ぶりで周囲からの信頼が厚かった由。

その後二十歳で証券界に転身し、兜町で活躍、昭和十九年に大澤証券を設立し、社長となる。頭脳明晰で情に厚く、社員とその家族を大切にされていました。また、一度恩を受けたことは生涯忘れず、いつかその恩に報いたいという報恩感謝に徹した人生観をもっておられた方でした。震災、戦争、株の暴落等の厳しい環境においても、弛まぬ努力

郷土行田市に数々の業績と多大な貢献をされ、後に名誉市民として推挙された大澤龍次郎翁の功績とお人柄、小学生、中学生のころに大澤龍次郎翁と手紙のやりとりをしたことなどの思い出についてお話いたします。

とき 2019年6月30日(日)  
午後1時開場  
午後1時30分開場～3時(終了予定)

ところ 行田市教育文化センター  
「みらい」第一学習室  
〒361-0032 埼玉県行田市佐間3丁目24-7  
TEL 048-556-2649

講師 江利川 毅氏  
行田市出身。  
公益財団法人医療科学研究所理事長。  
人事院総裁、厚生労働事務次官、  
内閣府事務次官等歴任。



参加料 無料(先着90名)

主催 公益財団法人 忍郷友会 忍歴史塾  
連絡先 TEL 048-556-9000(事務局)

後援 行田市教育委員会

# 忍歴史塾 郷土の偉人 大澤龍次郎翁 との思い出

市の発展に貢献した実業家  
大澤 龍次郎 【おおくわ りゅうじろう】

証券会社社長、明治20年(1887)、行田の兵衛商大澤久吉(行田の大家)の長男として生まれた。道修館尋常高等小学校を卒業後、14歳で東京神田橋町の木綿商安田源蔵商店に奉公に上がり、19歳で児町の中次安蔵商店の店員となり(雇われ)に入った。大正5年(1917)、公債株式会社(現日本郵政)を創設、同年に東京株式取引所(現東京証券取引所)の理事を務めて株式会社大澤龍次郎商店を設立した。昭和19年(1944)には大澤証券株式会社(現大澤証券)を創設した。大澤は郷土愛の精神が強く、学校や厚生関係、消防、警察などに多額の資材を寄付した。この郷土愛は終生変わることなく、数多くの業績により、昭和33年、行田市名誉市民に推挙された。昭和49年11月5日死去。享年87歳。水城公園に大澤龍次郎翁が建立された。



を続け大澤証券を堅実に経営されました。

また、大澤翁は郷土愛に溢れる方で、その愛は終生変わることにはなかつた由。具体例として、二十一歳の時、恩師の「子供たちが鉛筆が買えない」の言葉に接し、鉛筆五〇〇本を寄付されたのを始め、勉学に励む若者への支援に熱い心を持っておられたようです。郷土行田市には、時警塔や愛のチャイム等数えきれない程の浄財を学校、厚生関係、消防、警察等にも寄贈されています。行田市、埼玉県だけでなく国や他県にも多額の寄付をされ、昭和三十一年紺

綬褒章を授章され、昭和四十九年に八十七歳の長寿を全うされ、永眠されました。

## 講師江利川毅評議員との出会い

小学六年生の時、作文コンクールで埼玉県知事賞を受賞した折、大澤龍次郎翁からお祝いに「広辞苑」が贈られ、帝国ホテルのレストランで食事を頂いたそうです。そのお礼や何かの機会がある毎に近況報告等を記して何度かお手紙を差し上げた所、その都度丁寧な返信が届き、きれいな字、丁寧な言葉遣いのものを頂き、子供心にも一人の人間として

対応して下さったことに対して大変感銘を受けられたそうです。

### 江利川毅氏の経歴

行田市出身、東小中学校、長野中学校から熊谷高校、東京大学法学部を卒業、内閣府事務次官、厚生労働省事務次官、人事院総裁を歴任。

現在 公益財団法人医療科学研究

所理事長

忍郷友会評議員

今回郷土の偉人というテーマで開催しました所、このような貴重なお話を伺うことが出来ました。戦前戦後を通して経営者として厳しい中にも温かいお人柄であった大澤翁の事蹟に触れる事が出来、改めて感動し



会場いっぱいの受講者

ました。受講者の中に元大澤証券の社員だった方が居られ、涙が出る程嬉しかったと話されていました事が印象的でした。

ご高承のとおり、水城公園には、大澤龍次郎像が建立されております。またこの講演会の様子はホームページ忍歴史塾にも掲載されています。



大澤龍次郎翁の銅像



江利川毅さんを囲んで記念撮影



**SHIMIZARNET**

人にやさしい  
快適な環境づくりをめざして...

産業資材販売  
給排水空調衛生設備工事  
エクステリア・景観整備工事

**株式会社 清水アーネット**

- 社会福祉施設
- 教育・文化施設
- オフィス・工場
- 店舗・商業施設
- 耐震補強
- 建物リニューアル

技術と環境の未来を見つめて

**小川工業株式会社**

埼玉県行田市桜町1-5-16 TEL.048-554-4111

# 長軀 門司運行った 藩校サミット萩大会 ドライブ

鈴木 秀 憲

自分の車で（沖縄以外の）全国ドライブも、丸亀大会のついでに四国を巡ったものの、九州や北海道は勿論、本州でも未だ山口・島根両県へは行ってない。（レンタカーでは何回か行っている。）萩大会へ出席のついでに今回やっと中国地方の走破が完了する。

## 11月28日

家を八時半に出発し、グーグルマップによる走行八八〇km走行所要十時間のところを、広島県宮島口のホテルへ十九時半に到着した。あと二時間も走れば萩まで行けるが、この先はどうしても寄りたいところがあるので、宮島渡航口と厳島が見える宮島コーラルホテルへ投宿し、牡蠣尽くし料理を楽しんだ。

## 11月29日

萩へ着く前に寄りたい所の一つ目は、岩国城。一〇〇名城の一つでもあり、吉川広家（毛利元就の次男吉川元春の三男…つまり毛利元就

の孫）が関ヶ原の戦後処理の後に、一六〇一年から八年かけて横山山頂（標高三〇〇m）へ築城した城である。しかし、その後の毛利一族の内紛や、一国一城令等の諸事情の為、大坂夏の陣の後にこの岩国城は破却され、藩として成立せず、長州藩の一部としての位置づけであった。幕末



錦帯橋

写真右上が岩国城、  
左上はロープウエイ山頂駅

期に岩国藩として認められたものの、一八七一年の廃藩置県で岩国県になるも、同年十一月に山口県に統合された。今でも、岩国は山口県と言うより広島県の一部と思う人がいる位に、山口とかけ離れた東端（広島寄り）に位置している。戦国末期から江戸時代にかけては、防長二ヶ国を東の脅威（幕府を指す）から守る位置づけであったようだ。岩国城に対する地元の人々の思いは強く、第二次大戦後の昭和三十七年には、岩国市を一望の下にする横山山頂へ立派な城が築かれた。

この城が、眼下の錦帯橋と一体になる眺望は素晴らしい。宮島口のホテルを八時半に出発した私のCLS（車の型式）は九時に錦帯橋がかかる錦川の河原駐車場へ到着した。ここからの眺めは素晴らしい。素人の私でも絵になる写真を撮れた。岩国城へは、グーグルマップによると山頂の城前迄道路があるが、管理用になつて居て一般車進入禁止だった。我々は対岸の吉香神社脇の麓駅からロープウエイで登り、緩い坂道を十分ほど歩いて岩国城へ到着した。

ロープウエイから見た眼下の景色は、岩国徴古館、岩国資料館、吉香公園等が昔の城下町を形作っていて素晴らしい眺望を楽しめ、紅葉が彩を添えた。昭和三十七年に復元され



岩国城

た岩国城は鉄筋コンクリート造りながら、当時の天守構造図を基に作られた四重六層の堂々たる復興天守で、天守閣から岩国市街地や瀬戸内海の眺望を充分に楽しめた。

錦帯橋で燕返しを編み出したと云われる佐々木小次郎の銅像を見た後、十時半にここを出て、十二時に防府にある毛利本家宅へ到着、今は毛利博物館となつて居る。

心待ちにしていた「家康から毛利家宛の起請文」を拜見できると、楽しみにして入館したが見当たらない。係の学芸員に尋ねると「毛利家の大切な宝物なので普段は展示しては有りません。以前ご覧出来たのは特別展示の時だったのでしょう。」との



旧毛利家本邸

事、ちよつとがっかりした。しかし、学芸員の詳しい話には惹かれるものがあった。学芸員の話は簡略表記すると、関ヶ原の戦い前日の慶長五年（一六〇〇年）九月十四日付で、「家康は輝元に好意を抱いている。毛利方が誠意を見せれば毛利方の領土を安堵する。」との起請文を徳川方の井伊直政と本多忠勝連名で毛利方の吉川広家と福原広俊宛に送っている。この起請文を信じた毛利方は、翌十五日の戦いでは、関ヶ原南宮山に陣取った毛利軍本体（大将の毛利秀元：毛利輝元の養子：は東軍に對抗しなかったが、広家が必死に食い止めた）が西軍に加担する事は無く、

（小早川秀秋の裏切りも有り）東軍つまり徳川方の勝利となった。

戦後の処理で、家康は「南宮山の毛利は動かなかったが、徳川軍の伏見城を攻略し。大津城を攻めている。従って毛利の全領土は没収する。」とし、一方で吉川広家に対しては「広家は律儀であり、防長二ヶ国を与える。」とした。これに対して、吉川広家は「自分が徳川方へ加担した事は毛利本家の為に行つた事。本家の領土が無くなるのなら私宛の領土は毛利本家へ与えて欲しい。」と懇願した。家康の家臣井伊直政と本多忠勝は「難癖をつけて毛利氏を滅ぼす事は、徳川氏が毛利氏との約束を違えることになり良くない事だ。」と家康に詰め寄る。井伊直政は「殿（家康）が毛利氏に対して起請文を書き花押を入れるところを見ていた。」との文章を家康へ差し出した。

これ等の動きを見て家康は、広家や直政、忠勝の意見を入れ、同年十月十日「周防、長門両国領土の安堵と輝元、秀就父子の命の保証」を認めた起請文を毛利輝元、秀就宛に差し出した。以来この起請文は毛利家の家宝として大切に扱われてきた。との事であった。尚、学芸員から「家康から差し出された起請文は、同じものを秀忠が発行し、更に家光も毛利家へ差し出した。」との説明を受



みもすそ川公園

けた。翌日の藩校サミットに於ける本郷和人氏の特別講演でも「起請文は秀忠や家光も書いた。」旨の話があった。徳川氏としても西の大藩の一つ毛利氏とは争いたく無かつたのだろう。

毛利本家へ一時間程滞在し、壇ノ浦合戦場跡へ向かい二時半に到着。ここは平家滅亡の地である。源平の合戦の前半戦は保元・平治の乱で平家の勝ち（源義朝が死去し、頼朝は捉えられて伊豆へ流された。）そして後半戦の前段は木曾義仲による京都制圧（この一部については、郷友会報七十四号に触れてある）、後半戦のクライマックスは一の谷の合戦・屋島の戦いに続くここ壇ノ浦の

戦いで終焉を迎える。現地へ行ってみると壇ノ浦公園ではなく「みもすそ川公園」と表示されている。「今ぞ知る みもすそ川の御流れ 波の下にも都ありとは」二位の尼が安徳天皇を抱いて入水した時の辞世の句に因んでいるらしい。みもすそ川は伊勢の五十鈴川の別名だそうで、海の下にも都があると安徳天皇に聞かせながら入水されたそう。

又ここは、馬関戦争（下関事件等ともいう）の舞台としても有名で、海に向けた砲台が設置されていた。一八六三年に長州軍が馬関海峡（現在は関門海峡と言う）を航行していた米・仏・蘭の艦船を攻撃したことに始まる。翌一八六四年米・仏・蘭にイギリスを加えた四カ国に攻められ、長州軍はその強さを知り今迄の攘夷の考えを捨て、軍備の近代化を急いだ。海に向けた砲台の道路を隔てた反対側に関門トンネルの歩行者用昇降口がある。歩いて関門トンネルを通行（七八〇m 徒歩約十五分 無料）する事も出来るが、私は車でこのトンネルを通過し門司へ向かった。九州の玄関口門司には、門司港駅付近に、旧三井倶楽部や旧大阪商船、旧門司税関等の明治・大正時代の洋館建築が多く有り、観光客がレトロ散策を楽しんでいた。当初は、この界隈を散策する計画だった

が、ここをパスして、今度はトンネルではなく高速道路（関門自動車道）の関門橋を渡って本土へ戻った。未だ時間に余裕があるのでここから角島大橋を渡って角島（下関市）へ行き、そこから萩本陣へ行く計画をしていたが、（昨日の長時間ドライブによる）家内の疲労が気になるので角島もパスして萩本陣へ車を向け、十七時を一寸回った頃に到着した。お読みいただいておりますか、もしれないが、私のドライブ行程は、昼食を計画していない。それ故家内は疲れるのかもしれない。夕食は宿の紹介による生簀料理の店へ出掛け

11月30日

八時半にホテルを出て、今日の会場「萩市民館」の位置と駐車場を先に確認して置き、まずは萩城址へ向かう。城址駐車場には時間が早い所為か誰もいない。徒歩二〜三分の城址へ向かい、石垣を曲がったところで、忍郷友会の川田隆生さんとはったり出くわした。川田さんはホテルからレンタサイクルでここへ来られたとの事、自転車活用を考えるなんてお元気を証拠だ。

萩城は、建物は消失してしまい、現在は石垣のみ、天守台跡もちゃんと残っていた。前述の通り毛利家は

関ヶ原の戦いの後、防長二ヶ国になつてしまつたが、その本拠地として一六〇四年に起工、一六〇八年に完成、明治七年（一八七四年）の解体までの二七〇年間、毛利氏十三代の象徴として威容を誇っていた。萩城傍の旧厚狭毛利家萩屋敷長屋を見ながら、直ぐ近くにある萩城下町へ車を向ける。幸いな事に未だ時間が早い所為か観光客が少ないので、CSで横道へ入り木戸孝允旧宅前等



写真右手は旧明倫館時代の藩士の練武の場・有備館、中央は旧藩校の門・観徳門、左は旧明倫小学校（現在は観光拠点の明倫学舎）

を車中から見て時間短縮を図り、サミットメイン会場の萩市民館向かいの明倫学舎横の駐車場へ入る。

明倫学舎は、江戸後期の旧萩藩校明倫館（一七一九年当時の藩主毛利吉元が子弟教育の為に城内の堀内へ開学、一八四九年に城下の江向へ拡大移転、一八六三年の藩庁移転に伴い、藩校も一八六七年に山口へ移転、江向には有備館等藩校の一部が残り、萩・山口の両地に明倫館が存在した。一方最初に明倫館が作られた堀内に一八七〇年に萩中学創立、廃藩置県により県立萩中学校、昭和二十三年の学制改革で山口県立萩高等学校になり紆余曲折を経て今日に至っている。

一方、城下の中心地・江向に建つ目の前の建物は、旧明倫館の跡地に昭和十年に明倫小学校として建てられ、つい先ごろの平成二十六年迄使われていたと言う。その風貌は木造二階建てが四棟有る堂々たるもので、私が卒業した旧行田中央小学校

（現在の市役所や産業文化会館の場所）に有った木造二階建て、講堂を含む横四棟を縦一棟で連結してあった。大正十年竣工、同十一年に旧藩校進脩館の流れを継ぐ進脩館尋常小学校と旧行田小学校の流れを継ぐ行田尋常小学校と佐間小学校を併合し忍町高等尋常小学校、途

中何回かの名称変更を経て昭和二十四年行田市立南小学校、昭和二十九年行田市立中央小学校。私が在籍していた頃の生徒数三、〇〇〇名。昭和四十二年焼失・解体。

を彷彿とさせる、否それ以上に立派な建物だ。現在は観光拠点として活用され、私が訪ねた時には、論語教室が始まるうとしていた。教師は羽織袴姿で非常に雰囲気があったのだが、肝心の生徒（観光客）が見当たらない。気の毒になり私は（藩校サミット出席の為）途中退出する許可を得て、生徒の席に座った。

この後、ホテルへ戻って、身支度を整えて藩校会議からの藩校サミットへ参加した。

十二月一日には、津和野城址、月山富田城址、松江城を経て、羽合温泉望湖楼泊。十二月二日八時半に羽合温泉を出発し鳥取を経て七八四kmを走行し、十九時に無事帰宅した。

毛利氏の興隆については、大内氏・尼子氏・陶氏等との関係（その際に月山富田城や津和野城も登場）を詳述しなければならぬが、紙面の都合で省略します。

# 「埼玉古墳群」が特別史跡に!

行田市教育委員会文化財保護課 課長 中島 洋一

令和元年十一月十五日、国の文化審議会が埼玉古墳群を特別史跡に指定し、保護するよう文部科学相に答申するよう決議しました。これによって埼玉古墳群が県内初の特別史跡に指定される見通しとなり、令和二年二～三月頃に官報告示されて正式に特別史跡となるものと思われま

す。  
特別史跡は、国が定めた歴史上重要な史跡のうち、学術上の価値が特に高く、日本文化を象徴するものを指し、建造物などの有形文化財でいう「国宝」に相当します。



埼玉古墳群(写真提供：行田市)

埼玉古墳群は古くからその存在が知られていましたが、昭和九年に稲荷山古墳の前方部が土取りのために破壊され、古墳群は消滅の危機に瀕しました。この危機に当時の埼玉村は古墳の保存要望書を県に提出、それが契機となつて、昭和十三年に「埼玉村古墳群」として国指定史跡になりました。

今回の特別史跡指定の答申で、埼玉古墳群は「五世紀末から七世紀初頭にかけて大宮台地の先端に築かれた、前方後円墳八基、大型円墳一基及び小型円墳群からなる古墳群。調査・整備・活用の取組を長期にわたり継続し優れた実績を上げており、我が国文化の象徴として極めて重要。」と評価されています。この評価は、埼玉県と行田市にとって大変名誉なことであり、特に地元埼玉地区の方々にとっては、これまでご努力が報われた答申であると言えます。

その後も埼玉村は保存会を結成するなど古墳の保存に尽力し、昭和二十六年には県に古墳の公有地化の陳情書を提出、翌年二子山古墳等が公有地化されました。昭和二十九年に行田市と合併する際にも、(出土品を収蔵・展示する)考古館を古墳群付近に建設することを合併条件に盛り込み、昭和三十二年に埼玉神社境内に、「さきたま考古館」が開設されています。

今回の答申では、昭和四十一年の「風土記の丘」整備開始以降の取組だけでなく、こうした埼玉村時代の先駆的な取組も合わせて評価がされたものと考えられます。

埼玉県、行田市、行田商工会議所では、今回の答申を祝って懸垂幕、横断幕、のぼり旗等を作成し、PRを行っていきます。県では古墳公園内で子供を対象とした謎解きゲームや特別ガイドツアー等を開催し、特別史跡昇格の意義の周知に努めています。今後益々埼玉古墳群に注目が集まることが期待されます。市も県も、これまでの取組を踏まえて、埼玉古墳群を地域のまちづくりの中にしっかりと位置づけ、保存と活用をさらに推し進めていかなければなりません。

県教育委員会では平成三十一年三月に『史跡埼玉古墳群保存活用計画』

を策定しており、今回の答申を契機に、古墳群の管理者である県自らが積極的に活用事業を展開し、これまでの調査・研究・保存・整備の成果を地域づくりに繋げて行って欲しいと願っています。



PRののぼり旗

市でも古墳群の夜景を楽しみながら、外国人観光客等に古墳群の歴史的価値等をPRする古墳公園内での「(仮称)ヘリテージキャンプ」の提案、近年「大人の社会科学見学」が人気であるので、かつて社会科学見学で古墳群を訪れた首都圏の社会人をターゲットにした「(仮称)もう一度さきたまへ大人の社会科学見学ツアー」による史跡整備のアピールの提案などを県に行い、活用を模索しています。

は具体化していませんが、この機会に埼玉古墳群、そして行田市に多くの方に訪れていただきたいと心より願っております。郷友会の皆様にもぜひご協力をよろしくお願い申し上げます。

## 「行田足袋」が 国の伝統的工芸品に指定されました！

令和元年十一月二十日、経済産業省が伝統的工芸品の振興に関する法律に定める伝統的工芸品として、「行田足袋」を指定しました。

経済産業省の報道資料には、「行田足袋は埼玉県行田市において生産される足袋です。江戸時代の中頃から特産品としてその名が知られるようになり、江戸や東北地方にも出荷されました。明治時代後半にミシンが導入されると生産量が増加し、行田は全国一の足袋の産地となりました。現在まで、長い伝統を保持し、和装文化に欠かせないアイテムとなつていきます。」と評価が記されています。

今回の指定で、「行田足袋」は国の伝統的工芸品として認められるとともに、法律に基づく各種振興施策を行うことが出来るようになります。



行田足袋

た。「行田の足袋製造用具及び製品」の国文化財登録、「和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田」の日本遺産認定など、ここ数年行田足袋に注目が集まっており、今回の指定が行田の足袋産業の更なる振興に繋がることが期待されます。



PRの懸垂幕

### ちよつと一息 忍川のカモ

二〇一九年の全国一斉ガンカモ調査（一月十四日基準日）で忍川（熊谷市平戸から行田市の堀切橋）がカモの数では一二〇〇羽以上をカウントし、埼玉県で二位となりました。種類はコガモ、カルガモ、マガモが主です。

忍川のカモ第一位コガモ六二九羽、日本で越冬するカモ類の中でも小さいカモなのでコガモと呼ばれました。“子”ガモではなく“小”ガモです。群れていることが多く、オスはピリッピリッと鳴き、メスはグエーグエッと鳴きます。

第二位カルガモ四七〇羽、留鳥（一年中見られる鳥）です。国内で繁殖します。メスが何羽ものひなを連れた様子を見た人もいます。多くの越冬するカモのオスが冬の間繁殖羽となり、オスメスの区別がつかますが、カルガモはオスメス同じ色で区別は難しいです。グエーグエッと低い声で鳴きます。

第三位マガモ一五二羽、味が良いため、飼育改良されたのがアヒルです。マガモとアヒルの雑種が合鴨。鳴き声はグエーグエーグエツ。

他にもハシビロガモ七羽、オカヨシガモ一羽がカウントされました。お勧め観察地は酒巻導水路合流地点です。



カルガモ親子



マガモ



足袋蔵の路地にほんのり梅香る  
渡邊 栄一

山頂に赤城おろしの雲かかり

十六夜の月に魅かれて城に立つ  
須郷 隆

妻編みて年重ねしや冬帽子

ラグビーの八強目指す熱き秋  
小島 敏男  
つつがなく傘寿を迎う今年酒

友よりの絵手紙告げる梅開花  
安部 節子

無残なり瑞穂の国の台風禍

元号の令和となりぬ新樹光  
清水 孝男  
正月や揃う子宝孫宝

風の息春一番の予感かな  
阿部秀二郎

岩に寝てうろこ大河を独り占め

菜の花やわが故郷を明るくす  
倉持成一郎

心和ぐ娘とすごす宿の春

春めいて微笑む木々と人々も  
三島 務  
竹の秋白き一本墓標かな

春山となりし九基の古墳かな  
鈴木スイ子

麦秋や利根の潤す過疎の里

早春の椅子きしませて医師の前  
折井 幸子  
寒椿真っ赤に咲きし誰を待つ

九谷焼抹茶一服春隣  
遠藤 初枝

褒めことば素直に受けて秋日和

早春の朝メールにて季語を知り  
長谷川 博  
見渡せば稲の花揺るる田舎道

山暮れてなお歩きけり初紅葉  
隆 石(小山 博)

初富士の静かならざる日もあらむ



**ファイブイズホーム**

株式会社ファイブイズホーム  
代表取締役社長  
細井 保雄



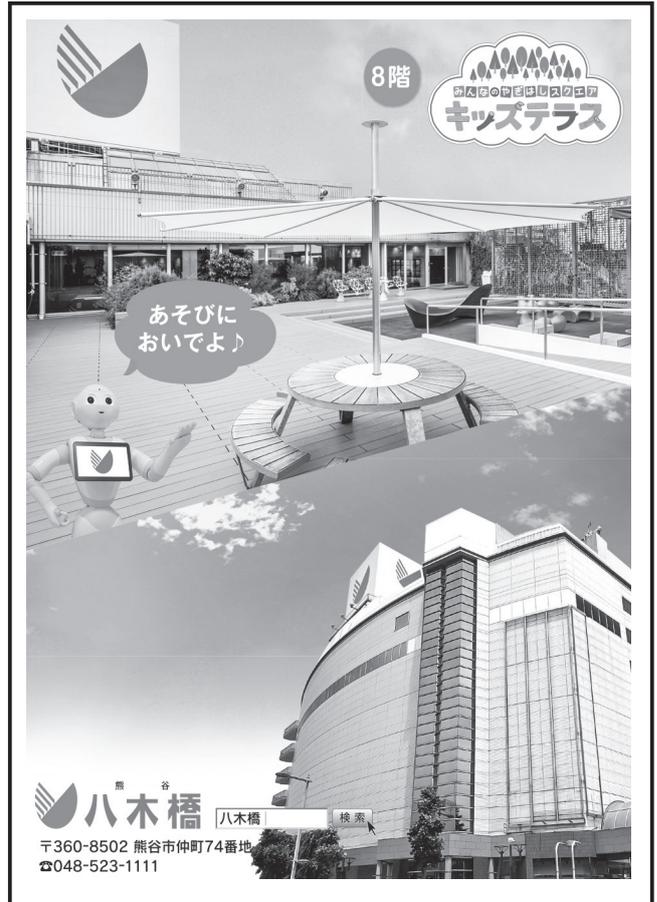
社員送迎バス  
スクールバス

Kyodo Bus Group

コミュニティバス

観光旅行バス

**株式会社 協同バス**  
TEL: 048-554-0808 (予約)  
埼玉県行田市佐間1-20-36



8階

キッズテラス

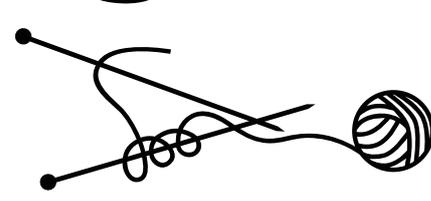
あそびに  
おいでよ

八木橋

〒360-8502 熊谷市仲町74番地  
☎048-523-1111

FASHION CREATORS HOUSE

**gim**<sup>®</sup>  
co.,ltd.



株式会社ジム  
代表取締役会長  
**八木原 保**

「地域共存」68年

税理士法人 **大久保会計** (行田市消防署前)

株式会社 **チェリー総合研究所**

税理士 **大久保 毅**

税理士 **大久保 栄吾**

税理士 **大久保 秀彦**

〒361-0023 本店 行田市長野二丁目二五番三三三号  
熊谷支店 熊谷市津田二一八八番地

# 御名刺掲載欄

(順不同)

公認会計士

奥貫健一

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷三ー一十五ー四〇一

大野建設株式会社

代表取締役

大野年司

〒361-0056 埼玉県行田市持田三丁目四番三号  
電話 ○四八(五五三)〇一〇〇

ガクヤ株式会社

代表取締役社長

小池俊輔

〒361-0075 行田市向町十四ー二十  
電話 ○四八ー五五六ー三二二一

公益財団法人忍郷友会

会長

松平忠昌

〒214-0038 川崎市多摩区生田六一ー一五ー三三六  
電話 ○四四ー九五五ー九三三六

天眼寺住職

東瑞芳

〒110-0001 東京都台東区谷中一ー二一ー十四  
電話 ○三一三八二一ー七七七八

特別会員

白河藩阿部家二十二代当主

阿部正靖

〒297-0057 千葉県茂原市中善寺一ー〇九ー八  
電話 ○四七五ー二六ー五五七九

行田セレモニー

(株)ヨコカワ

代表取締役会長

横川福治

〒361-0073 埼玉県行田市行田一ー一三三  
電話 ○四八ー五五六ー二二五六

山本食品工業株式会社

代表取締役会長

山本正幸

〒361-0025 埼玉県行田市埼玉四八六一  
電話 ○四八ー五五九ー二二一一

株式会社 ケイマス

代表取締役

黒渕陽夫

〒365-0001 埼玉県鴻巣市赤城台三六二ー二二  
TEL ○四八ー五六九ー二二五  
FAX ○四八ー五六九ー二二二

弁護士法人 蔭山法律事務所

弁護士 蔭山好信

〒360-0041 埼玉県熊谷市宮町二丁目二八番地  
末広不動産宮町ビル二階・三階  
TEL ○四八ー五九九ー一三〇〇

ITの困りごと解決します  
ホットネット株式会社

代表取締役 小松和弘

〒361-0016 埼玉県行田市藤原町二ー七ー七  
電話 ○四八ー五八〇ー一三〇七七

株式会社 シンセイ開発

代表取締役

新井 誠

〒361-0056 埼玉県行田市持田二ー十四ー三十七  
TEL ○四八ー五五五ー二二三三  
FAX ○四八ー五五五ー一三七八

小澤企画

各種相談・企画・コンサル

代表 小澤誠邦

〒361-0006 埼玉県行田市大字白川戸七〇二ー一  
TEL ○四八(五六四)一ー一一  
FAX ○四八(五五二)〇五八二



医療法人 葦の会  
石井クリニック

元気いっぱい 笑顔いっぱい

理事長 石井義則

〒361-0037 埼玉県行田市大字下忍一ー〇八九ー一  
電話 ○四八ー五五五ー三五一九

渡辺株式会社

取締役会長

渡邊栄一

〒361-0073 行田市行田一―四  
電話 〇四八―五五六一―八九六八  
FAX 〇四八―五五六一―二八八八  
携帯 〇九〇―一七七一―九一三五五

羽生モータースクール

代表取締役

五十幡和彦

〒348-0036 埼玉県羽生市大字砂山八〇  
TEL 〇四八(五六一)三〇〇八  
FAX 〇四八(五六一)一五四七  
http://www.motorschool.co.jp  
E-mail: hanyu@motorschool.co.jp

小山商事株式会社

代表取締役 小山喜一郎

〒361-0025 埼玉県行田市大字埼玉三三五―一  
TEL 〇四八(五五九)四一四二―二(代)  
FAX 〇四八(五五九)二二五五〇

根岸友山・武香ミュージアム

根岸友憲

〒369-0104 埼玉県熊谷市青山一五二番地  
電話 〇四九三―三三九一―〇〇〇六

曹洞宗 松雲山 長光寺

住職 福島伸悦

(連絡先) 埼玉県行田市下中条一六一―九一二  
電話 〇四八―五五七―〇九九九  
FAX 〇四八―五五七―二三四七  
E-Mail: kotokuji@nuc.biglobe.ne.jp  
http://chokoji.or.jp

会長

飯田芳幸

Emborick NETWORK SERVICE PROVIDER SAKITAMA-INTERNET  
〒361-0062 株式会社エンボリック  
http://www.emborick.co.jp  
やまとネット  
http://www.sakitama.or.jp

小山商事株式会社

取締役会長 小山博

〒361-0025 埼玉県行田市大字埼玉三三五―一  
TEL 〇四八(五五九)四一四二―二(代)  
FAX 〇四八(五五九)二二五五〇

(株)味工房 那のつ

代表取締役 阿部秀二郎

〒361-0023 埼玉県行田市長野一―三三一―一〇  
電話 〇四八―五五五―一四五〇

合資会社 青美矢沢商店

代表社員

矢澤大和

〒361-0073 埼玉県行田市行田二―一―二五  
TEL 〇四八―五五六一―三三三二  
FAX 〇四八―五五三―〇〇四〇

株式会社 リノン

LINON CORPORATION

代表取締役 新井啓介  
ARAI/KEISUKE (Casey)  
President

LINON 本社 埼玉県行田市朝谷三五  
〒361-0038  
E-office: 25 Maeza Gyo-da-shi Satemaken Japan  
TEL: 〇四八―五五五―〇九九 FAX: 五五五―三三三九  
携帯 (Cell) 〇九〇―三三三三―〇三三四  
http://www.linon.co.jp E-mail: arai@linon.co.jp

作業服ならお任せ下さい

株式会社武蔵野ユニフォーム

代表取締役 小松和弘

〒361-0016 埼玉県行田市藤原町二―七―七  
電話 〇四八―五五四―七三二五

創業 文久二年 伝統の味

割烹 魚 豊

橋本恭一

TEL 〇四八―五五三―三三一一  
FAX 〇四八―五五三―三三一一

山本商事株式会社

東京海上日動火災保険株式会社(代理店)  
東京海上日動あんしん生命保険株式会社

取締役会長 山本憲作

保険のやまもと

〒361-0074 埼玉県行田市旭町一〇―一四三  
TEL 〇四八(五五五)二二二一(代)  
FAX 〇四八(五五五)一三三〇八  
E-mail: info@hoken-yamamoto.co.jp

有限会社 高戸環衛

代表取締役

戸ヶ崎直司

〒361-0062 埼玉県行田市藤原町三―一―二六  
電話 〇四八―五五四―一九二〇  
FAX 〇四八―五五六―二六二七

全国PHP友の会

特任顧問

加藤力也

〒362-0034 埼玉県上尾市愛宕三―二―一九  
TEL 〇四八―七七―一五八五  
FAX 〇四八―七七―一五八五  
E-mail: show-katou@com.home.ne.jp

株式会社 村賀商店

代表取締役

村賀英介

〒361-0076 埼玉県行田市天満三―二―二四  
TEL 〇四八―五五四―三二四〇  
FAX 〇四八―五五四―三二四〇  
E-mail: muraga@tv.g.n.e.jp

 <p>代表取締役 <b>田 島 博 夫</b></p> <p>〒361-0073 埼玉県行田市行田五〇一〇 スリーハートビル2F TEL(〇四八)五六四一三二二三 FAX(〇四八)五六四一三二二三</p> <p>株式会社 スマートプラン 東京海上日動火災保険株式会社 代理店 東京海上日動あんしん生命保険株式会社</p>	<p>株式会社 セティアコーポレーション 代表取締役 <b>岩 崎 安 裕</b></p> <p>〒323-0028 栃木県小山市若木町二一十一一五 TEL(〇二八五)二二三八八三三(代) FAX(〇二八五)二二一三三七七</p>	<p>《昭和14年創業》 各種自動車・重機・ラヂエーター販売修理 有限会社 小笠原ラヂエーター工業所 取締役 <b>中 川 邦 明</b></p> <p>〒360-0023 埼玉県熊谷市佐谷田一四三二一番地 TEL(〇四八)五二一三三九五(代) FAX(〇四八)五二一三三八四 自宅TEL(〇四八)五五三〇二七八</p>	 <p>代表取締役 <b>倉 持 成 一 郎</b></p> <p>〒361-0022 埼玉県行田市桜町一二十一一四 TEL(〇四八)五五六二一九一四 FAX(〇四八)五五三二二八三</p> <p>株式会社 倉持商店 紺織製品製造本舗・力王たび代理店</p>
<p>代表取締役 <b>川 辺 秀 夫</b></p> <p>〒361-0073 行田店 〒361-0073 本部・サンピオ店 埼玉県行田市行田十三一 埼玉県行田市行田十三一六</p> <p>ファッションサロン チューオー</p>	<p>有限会社 長谷川工業 代表取締役 <b>長 谷 川 雅 敏</b></p> <p>〒361-0022 埼玉県行田市市桜町三一十九一七</p>	<p>川野健人事務所 司法書士・土地家屋調査士 代表取締役 <b>川 野 健 人</b></p> <p>〒361-0077 埼玉県行田市市忍二一十四一二十二 TEL(〇四八)五五二一〇一五二 FAX(〇四八)五五二一〇一五三</p>	<p>地域と農業を支える農機のドクター <b>SEYAMA</b> 代表取締役 <b>瀬 山 文 孝</b></p> <p>〒361-0012 埼玉県行田市下須戸九六七 TEL(〇四八)五五九一三七三〇 FAX(〇四八)五五九一四〇〇〇 http://www.seyama-nongu.co.jp</p> <p>有限会社 瀬山農具製作所</p>
<p>代表取締役 <b>大 谷 純 一</b></p> <p>三共印刷株式会社 埼玉県行田市富士見町二一三〇 TEL(〇四八)五五六一六二〇一</p>	<p>株式会社 碓井測研 代表取締役・ご相談係 <b>碓 井 勝 也</b></p> <p>境界査定・測量・登記・設計・開発 不動産取引(埼玉県知事)517044 〒361-0026 埼玉県行田市大字野七九八一 TEL(〇四八)五五九一四二一一 FAX(〇四八)五五九一四四五〇 携帯(〇九〇)三二一九一四七六四 E-mail: usui@sakittama.or.jp</p>	<p>株式会社 武蔵野物流 代表取締役 <b>丑 久 保 紀 美</b></p> <p>〒361-0013 埼玉県行田市真名板二〇五二一一 TEL(〇四八)五五九一三三三四 FAX(〇四八)五五九一三二九九</p>	<p>株式会社 メンズオータニ 代表取締役社長 <b>大 谷 文 孝</b></p> <p>〒361-0023 埼玉県行田市長野四一一一 TEL(〇四八)五五九一三八四一 FAX(〇四八)五五九一三八四四</p>
<p><b>事務局就業のご案内</b> (公財) 忍郷友会事務局の就業日は、平成29年1月より、火曜日・金曜日となっております。就業時間については、従来通り10時～16時までです。</p>			

# 行田市の現勢

令和元年十二月一日

## 1 市役所所在地

〒三六一―八六〇一

埼玉県行田市本丸二番五号

TEL〇四八―五五六―一一一

FAX〇四八―五五六―一七六六

## 2 市制施行

昭和二十四年五月三日

## 3 面積

六、七四九km<sup>2</sup>

## 4 人口

八〇、九七六八

## 5 世帯数

三五、〇六四世帯

## 6 財政

二五八、八億円  
(当初予算)

## 7 市の機構

市長 石井直彦

副市長 石川隆美

## 8 教育委員会

教育長 鈴木トミ江

## 9 議会

議員定数 二十二名 (無所属  
十七、公明三、日本共産党二)

## 10 学校

議長 香川宏行

副議長 吉野教修

## 11 都市宣言

大学 一校

専門学校 一校

高等学校 一校

中学校 八校

小学校 十六校

環境衛生都市宣言

人権尊重都市宣言

平和都市宣言

青色申告の都市宣言

交通安全都市宣言

暴走族追放都市宣言

非核平和都市宣言

## 12 まちづくりの目標

水と緑 個性あふれる文化都市

## 13 産業経済

製造品出荷額 二、六八六億円  
(平成二十九年)

商品販売額 一、七七二億円  
(平成二十八年)

農業粗生産額 三十七億円  
(平成二十八年)

商店数 六七四店舗  
(平成二十八年)

工業事業所数 一九一事業所  
(四人以上・平成二十九年)

さきたま史跡の博物館

教育文化センター

郷土博物館 忍城御三階櫓

産業文化会館・はにわの館

総合体育館・市民プール

総合公園野球場

公民館(十七館)・図書館

古代蓮会館・総合福祉会館

商工センター

風土記の丘さきたま古墳公園

忍城址公園

古代蓮の里公園

行田市郷土博物館

利根大堰

水城公園

東照宮

行田八幡神社

前玉神社

足袋蔵

石田堤

わらべ人形通り

## 編集後記

今年には総会案内とともに会報をお届け出来ず申し訳ありませんでした。早めに原稿を提出いただいた方には特にお詫び申し上げます。

さきたま古墳群が国の特別史跡に指定されるとの嬉しいニュースが飛び込み、中島さんには急遽テーマを変更して寄稿して頂きました。行田にはまだまだ私たちが気づかなかった魅力があると思います。十一月忍川沿いの遊歩道を行田市駅から持田駅まで自然と秩父鉄道の魅力を探訪するウォーキングの会を行いました。魅力あるローカルな駅舎が多い秩父鉄道ですが、駅の中の踏切や線路沿いの多くの水路にある赤煉瓦の鉄橋、開通当時のレールが再利用されている柱等々魅力がいっぱいでした。今度は東行田駅から武州荒木駅までの魅力を再発見したいと思いました。

会報委員会委員長 橋本 恭一

発行者 公益財団法人 忍郷友会 会長 松平忠昌  
事務局 〒三六一―〇〇七三  
埼玉県行田市行田五―一〇  
(十万石スリーハートビル3F)

TEL. 〇四八―五五六―九〇〇〇

FAX. 〇四八―五五六―九〇〇七

URL/ www.oshi-goyukai.or.jp

e-mail/ gyouda@oshi-goyukai.or.jp

印刷 三共印刷株式会社  
〒三六一―〇〇二一

埼玉県行田市富士見町二―一―三〇

TEL. 〇四八―五五六―六二〇一

FAX. 〇四八―五五六―六二〇四





「埼玉古墳群」が特別史跡に! (写真提供: 行田市)